

大学院教育学研究科
専門職学位課程（教職大学院）
授業科目のシラバス

平成29年度



国立大学法人
宮 城 教 育 大 学

教 育 課 程

授 業 科 目 名	「子どもの学習指導」教育課程・指導支援法開発論				
教員免許状取得のための	選択科目	授業形態	複数	単位数	2単位
担 当 教 員 名	吉 村 敏 之・金 田 裕 子・大 沼 あゆみ				
授 業 の 到 達 目 標 及 び テ ー マ	<p>児童生徒の深い学びを促す、指導支援の内容・方法と教育課程の編成について、具体的に学ぶ。この授業で主に扱うテーマと到達目標は、次の4点である。</p> <p>①授業記録を作成できる。 ②授業分析の方法を知る。 ③学習の原則を理解する。 ④学習集団を組織する意義と方法を理解する。</p>				
授 業 の 概 要	<p>教室における児童生徒の学習上の「つまずき」の改善や「伸び」の促進のための、具体的な指導のあり方についての知見を得る。授業の質を高める、教育課程編成の原理と方法を理解する。特に、次の2点を重視する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教育課程を考えるための諸要素について、基本的な知識を与える。 ・授業を組織するため、授業をみるために求められる、基本的な視点を与える。 				
授 業 計 画	1	授業記録を作る（1）			
	2	授業記録を作る（2）			
	3	授業記録を作る（3）			
	4	授業記録を読む（1）			
	5	授業記録を読む（2）			
	6	授業記録を読む（3）			
	7	授業分析（1）			
	8	授業分析（2）			
	9	学習の原則（1）			
	10	学習の原則（2）			
	11	学習の原則（3）			
	12	学習集団の組織（1）			
	13	学習集団の組織（2）			
	14	学習集団の組織（3）			
	15	学修のまとめ			
教科書・参考書等	必要に応じて、その都度、提示する。				
評 価 の 観 点	授業記録を作成できるか。授業分析ができるか。学習形態、学習集団について理解したか。				
成 績 の 評 価 方 法	授業への寄与（参加度）20％・授業内容の理解度80％				

教 育 課 程

授 業 科 目 名	「子どもの生活と行動」教育課程・指導支援法開発論				
教員免許状取得のための	選択科目	授業形態	講義・オムニバス・一部集	単位数	2単位
担 当 教 員 名	佐藤 静 , 宮前 理 , 関口 博久 , 村上 由則				
授 業 の 到 達 目 標 及 び テ ー マ	<p>学校現場における教育相談上の配慮や支援を必要とする児童生徒の「困難」等の改善の促進のための具体的な指導内容・方法に関して実践と省察を行い、効率的な教育課程編成に関して理解する。</p> <p>「実態分析論」に基づいて構成した指導内容・方法の実践と省察を繰り返し、その成果をふまえて効率的に配置構成した教育課程編成を行うことができる。さらに、編成した教育課程に基づく実践と検証による教育課程の再検討・修正を行うことができる。</p> <p>配慮や支援を必要とする児童生徒の実態に関わる多角的な情報と、教育相談及び特別支援領域、発達科学専門領域の知見に基づく教育課程の編成が、児童生徒の「困難」等の改善にとって有効性をもつことを教員等指導者間で共通に認識できる。この授業を通して、教員間で共有すべき配慮や支援を要する児童生徒の困難等の改善を促す指導・支援の内容・方法の開発及び教育課程の編成等に関する視点や方法を身につける。</p>				
授 業 の 概 要	<p>この授業では、「実態把握論」及び「実態分析論」の学習成果を踏まえて、教育相談の観点から、配慮や支援を必要とする児童生徒の困難等の改善を促す指導・支援の内容・方法の開発と教育課程の編成等について、実践的調査や検証、討議等を通して学ぶ。実際の学校現場の実態を踏まえながら、教育システムや指導内容・方法、教育課程編成等に関する課題を検証し、教育現場に導入・応用可能な改善策等に関する実践的学習を行う。</p> <p>授業は、大学院生の関心に応じて適応支援領域と特別支援領域に対応する別の時間割によって授業を実施する。適応支援領域は後期末の時期に集中講義を行う（日時については別途連絡する）。特別支援領域の授業は、一部集中講義とし、12月第1週から開始し翌年11月まで開講する。</p> <p>なお、受講に際しては、適応支援領域ではカウンセリング・不登校等について、特別支援領域では障害科学における心理・生理・病理についての基礎的・専門的知識を必要とすることに留意すること。</p>				
授 業 計 画	1	オリエンテーション			(宮前ら)
	2	実態改善や促進のための指導支援内容・方法の検討及び内容方法等を配置構成する教育課程に関する演習①			(宮前ら)
	3	実態改善や促進のための指導支援内容・方法の検討及び内容方法等を配置構成する教育課程に関する演習②			(宮前ら)
	4	実態改善や促進のための指導支援内容・方法の検討及び内容方法等を配置構成する教育課程に関する演習③			(宮前ら)
	5	実態改善や促進のための指導支援内容・方法の検討及び内容方法等を配置構成する教育課程に関する演習④			(宮前ら)
	6	指導支援法と教育課程編成の成果発表と総括 (第Ⅰ期)			(宮前ら)
	7	開発した指導支援方法と編成した教育課程に基づく実践と検証による教育課程の再検討・修正1-①			(宮前ら)
	8	開発した指導支援方法と編成した教育課程に基づく実践と検証による教育課程の再検討・修正1-②			(宮前ら)
	9	開発した指導支援方法と編成した教育課程に基づく実践と検証による教育課程の再検討・修正1-③			(宮前ら)
	10	指導支援法と教育課程編成の成果発表と総括 (第Ⅱ期)			(宮前ら)
	11	開発した指導支援方法と編成した教育課程に基づく実践と検証による教育課程の再検討・修正2-①			(宮前ら)
	12	開発した指導支援方法と編成した教育課程に基づく実践と検証による教育課程の再検討・修正2-②			(宮前ら)
	13	開発した指導支援方法と編成した教育課程に基づく実践と検証による教育課程の再検討・修正2-③			(宮前ら)
	14	開発した指導支援方法と編成した教育課程に基づく実践と検証による教育課程の総括的検討			(宮前ら)
	15	指導支援法と教育課程編成の成果発表と総括 (第Ⅲ期)			(宮前ら)
教科書・参考書等	当該大学院生の関心に基づき、その都度提示する。				
評 価 の 観 点	教員間で共有すべき適応上の配慮・支援を必要とする児童生徒の困難等の改善を促す指導・支援の内容・方法の開発及び教育課程の編成等に関する視点や方法の学習の到達度により評価する。				
成 績 の 評 価 方 法	資料収集等に関するレポートとその発表により、評価する。シラバスの担当部分に関して各分担者が評価し、後に担当者全員で合議の上、最終的な成績評価を行う。				

教育課程

授 業 科 目 名	教育課程・指導支援法開発論 a (現職教員対象)				
教員免許状取得のための	選択科目	授業形態	複数	単位数	2 単位
担 当 教 員 名	吉 村 敏 之 ・ 金 田 裕 子 ・ 大 沼 あゆみ				
授 業 の 到 達 目 標 及 び テ ー マ	<p>教室における児童生徒の学習上の「つまづき」の改善や「伸び」の促進のための、具体的な指導のあり方について基礎的な知見を得る。授業の質を高める、教育課程編成の原理と手法を理解する。</p> <p>この授業で主に扱うテーマと到達目標は、次の4点である。</p> <p>①学校で教育する意義を知る。 ②授業研究の目的を知る。 ③授業を組織する技術（教材研究の原則、発問、学習形態）について理解を深める。 ④学力のとらえ方と学力向上の方策について理解を深める。</p>				
授 業 の 概 要	<p>児童生徒の理解を促す指導支援の内容・方法の開発と教育課程の編成について、具体的に学ぶ。特に、次の2点を重視する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教育課程を考えるための諸要素について、基本的な知識を与える。 ・学校教育の現場で出会う様々な状況に対応するための基本的な視点を与える。 				
授 業 計 画	1	オリエンテーション・学習指導要領について			
	2	教育課程の編成・教材開発（1）			
	3	教育課程の編成・教材開発（2）			
	4	教育課程の編成・教材開発（3）			
	5	授業研究の意義・学力向上の方策			
	6	学習形態（1）			
	7	学習形態（2）			
	8	学習形態（3）			
	9	学習形態（4）			
	10	学習形態（5）			
	11	「授業の創造」を核とした学校づくり			
	12	「教師が学ぶ」校内研修			
	13	すべての生徒が参加する授業の追求			
	14	「確かな学力」を育む授業の創造			
	15	カリキュラム・マネジメントの勘所			
教科書・参考書等	必要に応じて、その都度、提示する。				
評 価 の 観 点	学校教育の意義、授業研究の目的、授業の技術、学力について理解したか。				
成 績 の 評 価 方 法	授業への寄与（参加度）20％・授業内容の理解度80％				

教 育 課 程

授 業 科 目 名	教育課程・指導支援法開発論 b (ストレートマスター学生対象)				
教員免許状取得のための	選択科目	授業形態	複数	単位数	2 単位
担 当 教 員 名	小野寺 貴 子 ・ 吉 村 敏 之 ・ 金 田 裕 子				
授 業 の 到 達 目 標 及 び テ ー マ	<p>教室における児童生徒の学習上の「つまづき」の改善や「伸び」の促進のための、具体的な指導のあり方について基礎的な知見を得る。授業の質を高める教育課程編成の原理と手法を理解する。</p> <p>この授業で主に扱うテーマと到達目標は、次の3点である。</p> <p>①学校で教育する意義を知る。 ②授業研究の目的を知る。 ③授業を組織する基本的なポイントについて理解を深める。</p>				
授 業 の 概 要	<p>児童生徒の理解を促す指導支援の内容・方法の開発と教育課程の編成について具体的に学ぶ。特に次の2点を重視する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教育課程を考えるための諸要素について、基本的な知識を与える。 ・確かな授業力を身につけるための基本的な視点を与える。 				
授 業 計 画	1	オリエンテーション ・ 学習指導要領について			
	2	授業づくりの基本 (1)			
	3	授業づくりの基本 (2)			
	4	授業づくりの基本 (3)			
	5	授業づくりの基本 (4)			
	6	授業づくりの基本 (5)			
	7	学級活動の授業づくり (1)			
	8	学級活動の授業づくり (2)			
	9	道徳の時間の授業づくり (1)			
	10	道徳の時間の授業づくり (2)			
	11	道徳の時間の授業づくり (3)			
	12	総合的な学習の時間の授業づくり (1)			
	13	総合的な学習の時間の授業づくり (2)			
	14	授業を核とした校内研修			
	15	学修のまとめ			
教科書・参考書等	必要に応じて、その都度提示する。				
評 価 の 観 点	学校教育の意義、授業研究の目的、授業の技術について理解したか。				
成 績 の 評 価 方 法	授業への寄与 (参加度) 20%・授業内容の理解度 80%				

教科指導

授業科目名	「子どもの学習指導」実態把握論A			
教員免許状取得のための	選択科目	授業形態	単独	単位数 2単位
担当教員名	田 幡 憲 一			
授業の到達目標及びテーマ	<p>これまでの教科に関する科目や教職に関する科目等の学修を踏まえ、教科教育の見地から授業を検討し、評価と改善に資する活動を行うための資質を身につける。</p> <p>(1) 授業改善の歴史を踏まえ現在の授業改革に関する運動を適切に歴史の中に位置づけ、評価することができる。</p> <p>(2) 教材分析を踏まえ、児童生徒が学習目標を設定する際に適切な支援ができる。</p>			
授業の概要	<p>(1) 授業改善の歴史</p> <p>(2) アクティブラーニングとその理論的な背景</p> <p>(3) 子どもをアクティブにする授業をつくろう</p>			
授業計画	1	ガイダンス		
	2	ゆとりと学力の狭間で・・・明治以来揺れつづけていること		
	3	授業はなぜ、「導入」「展開」「まとめ」にわけられるようになったのか	1	
	4	授業はなぜ、「導入」「展開」「まとめ」にわけられるようになったのか	2	
	5	民主主義の展開と問題解決	1	
	6	民主主義の展開と問題解決	2	
	7	アメリカ教育施設団と生活単元学習		
	8	東西対立と教育の現代化運動	1	
	9	東西対立と教育の現代化運動	2	
	10	20世紀後半の教育論の展開		
	11	アクティブラーニングについて	1	
	12	アクティブラーニングについて	2	
	13	アクティブラーニングについて	3	
	14	アクティブラーニングについて	4	
	15	まとめ		
教科書・参考書等	国立教育政策研究所編：「資質・能力 理論編」，東洋館出版社，2016			
評価の観点	<p>(1) 授業改善の歴史を柱に現代の教育問題を論ずることができる。</p> <p>(2) 学修を柱に自らの教育活動を協働して振り返ることができる。</p>			
成績の評価方法	<p>(1) 現代の授業改善を適切に歴史に位置づけることができる。(レポート) 50%</p> <p>(2) 学修を柱とする教育活動の協働した振り返り。(授業への参加・発表) 50%</p>			

教科指導

授 業 科 目 名	「子どもの学習指導」実態把握論B			
教員免許状取得のための	選択科目	授業形態	単独	単位数 2単位
担 当 教 員 名	平 真木夫			
授 業 の 到 達 目 標 及 び テ ー マ	教育評価に関して2つの側面からアプローチする。1つ目は学習内容の評価、2つ目は質問紙を利用した学習実態把握。教育現場ではどちらの評価も不可欠なものであるが、受講者の要望に合わせてその比重を決定する。			
授 業 の 概 要	上記の1つ目のアプローチでは、教育評価に関する理論的枠組みを習得し、その実践としてパフォーマンス課題を作成し、あわせてルーブリックと一枚ポートフォリオを作成する。パフォーマンス課題作成にあたっては当該単元の教材研究が必要とされる。2つ目のアプローチでは、心理学的尺度の構成方法から質問項目作成へと作り替える過程を学び、実際に質問紙を配付しデータ分析まで行う。データ分析にあたって基礎的な統計学とエクセルの操作（ピボットテーブル等）を学習する。			
授 業 計 画	1	オリエンテーション（以下の計画は1つ目の教育評価に基づいたもの）		
	2	教育評価論1		
	3	教育評価論2		
	4	教育評価論3		
	5	教育評価論4		
	6	テスト問題作成に関するミーティング		
	7	小テスト実施と講評会1		
	8	小テスト実施と講評会2		
	9	小テスト実施と講評会3		
	10	テスト問題作成に関するミーティング		
	11	小テスト実施と講評会4		
	12	小テスト実施と講評会5		
	13	小テスト実施と講評会6		
	14	一枚ポートフォリオとテキストマイニング1		
	15	一枚ポートフォリオとテキストマイニング2		
教 科 書 ・ 参 考 書 等	各種指導要領ならびに、国立教育政策研究所が発行している「評価規準の作成，評価方法等の工夫改善のための参考資料」の購入をお勧めします。			
評 価 の 観 点	出席カードの記述内容（20%）、テスト作成への貢献度（50%）、最終レポート（30%）			
成 績 の 評 価 方 法	作成されたテストとポートフォリオを基本とするが、最後に提出を求めるレポートも参考とする。			

教科指導

授 業 科 目 名	「子どもの学習指導」実態分析論A			
教員免許状取得のための	選択科目	授業形態	単独	単位数 2単位
担 当 教 員 名	未 定			
授 業 の 到 達 目 標 及 び テ ー マ	担当者が決まり次第入力			
授 業 の 概 要	担当者が決まり次第入力			
授 業 の 内 容	1			
	2			
	3			
	4			
	5			
	6			
	7			
	8			
	9			
	10			
	11			
	12			
	13			
	14			
	15			
教科書・参考書等				
評 価 の 観 点				
成 績 の 評 価 方 法				

教科指導

授 業 科 目 名	「子どもの学習指導」実態分析論B				
教員免許状取得のための	選択科目	授業形態	TT、 オムニバス	単位数	2単位
担 当 教 員 名	田幡憲一、我妻良行、他				
授 業 の 到 達 目 標 及 び テ ー マ	実習における様々な学びの振り返りを通して、校内研修を通じた授業改善の在り方や子どもの成長を促す質の高い教師の関わり方などについて考察する。				
授 業 の 概 要	この授業は、学校における教職経験を十分に持たない受講者を対象とし、実習の在り方や進め方について理解を深めるとともに、実習での気づきを基に、学校組織の在り方や子どもとの関わり方などについて具体的に事例を挙げながら考察する。				
授 業 の 内 容	1	ガイダンス			
	2	児童生徒との関わり方Ⅰ（学びの交流）			
	3	児童生徒との関わり方Ⅱ（効果的な関わり方）			
	4	A3 1枚で授業を表現するⅠ			
	5	A3 1枚で授業を表現するⅡ			
	6	学校行事を通じた児童生徒の育成Ⅰ（学びの交流）			
	7	学校行事を通じた児童生徒の育成Ⅱ（効果的な実施）			
	8	校内研究の推進			
	9	研究授業からの考察Ⅰ（授業の見方とレポートの作成）			
	10	研究授業からの考察Ⅱ（検討会の実際①）			
	11	研究授業からの考察Ⅲ（検討会の実際②）			
	12	研究授業からの考察Ⅳ（授業実践への応用）			
	13	校内研究への取組についてⅠ（学びの交流）			
	14	校内研究への取組についてⅡ（校内研究の推進）			
	15	まとめ			
教科書・参考書等	授業開始時に資料を配布する。授業の進捗に併せて参考書等を紹介する。				
評 価 の 観 点	実践的指導力に関する基礎的事項が習得できたかという観点から評価する。				
成 績 の 評 価 方 法	平常点、授業時の発言、レポート等により評価する。				

教 育 相 談

授 業 科 目 名	「子どもの生活と行動」実態把握論				
教員免許状取得のための	選択科目	授業形態	オムニバス	単位数	2単位
担 当 教 員 名	佐藤 静・宮前 理・関口 博久・村上 由則				
授 業 の 到 達 目 標 及 び テ ー マ	<p>教育相談の観点から、学校現場における配慮や支援を必要とする児童生徒の示すさまざまな「つまずき」や「困難」などの実態を把握する意義と方法について理解する。</p> <p>教育及び発達科学等の専門領域をふまえ、配慮や支援を必要とする児童生徒の実態の量的側面・質的側面を把握するための観察法、教育評価、発達評価・検査等の演習と、実際の資料収集に活用できる。</p> <p>実際に収集した資料をもとに、配慮や支援を必要とする児童生徒の実態を把握し、教員等指導者間の共有情報としての確に活用することができる。</p> <p>この講義により学校現場における配慮や支援を必要とする児童生徒の実態について、多角的把握が図れるようにする。</p>				
授 業 の 概 要	<p>この授業では、教育相談（適応支援領域・特別支援領域）の観点から、学校現場における配慮や支援を必要とする児童生徒の実態を把握するために、実際の具体的な資料を参考にして様々な「つまずき」や「困難」等について基本的知識を得たうえで、カウンセリングや発達、特別支援教育に関する諸理論に照らしつつ、その実態や意味について量的・質的観点から理解を深める。さらに演習を通して教育相談活動の中での実地的な活用方法を学ぶ。</p>				
授 業 計 画	1	オリエンテーション			
	2	配慮や支援を要する子どもの生活や行動に関わる実態把握の意義①：資料収集の枠組みの設定			
	3	配慮や支援を要する子どもの生活や行動に関わる実態把握の意義②：第1次資料収集とその内容検討			
	4	観察法，教育・発達評価，検査等の演習と実習①			
	5	観察法，教育・発達評価，検査等の演習と実習②			
	6	観察法，教育・発達評価，検査等の演習と実習③			
	7	観察法，教育・発達評価，検査等の演習と実習④			
	8	教科・教育科学領域をふまえ量的・質的把握の理解①：第1次資料の分析と解釈			
	9	教科・教育科学領域をふまえ量的・質的把握の理解②：資料収集に有効な方法・技術の検討			
	10	教科・教育科学領域をふまえ量的・質的把握の理解③：第2次資料収集とその内容検討 1			
	11	教科・教育科学領域をふまえ量的・質的把握の理解④：第2次資料収集とその内容検討 2			
	12	実態把握の成果の総括①：第2次資料の分析と解釈			
	13	実態把握の成果の総括②：実態把握の意義の総括			
	14	実態把握の成果の総括③：配慮や支援を要する子どもの生活や行動に関わる実態把握の方法論の総括			
	15	実態把握の総括と成果発表：収集資料に基づく実態把握の成果に関する発表			
教科書・参考書等	当該大学院生の関心に基づき、その都度提示する。				
評 価 の 観 点	この科目履修によって配慮や支援を必要とする児童生徒の実態について多角的把握が図れるようになったかどうかを判断し評価する。				
成 績 の 評 価 方 法	資料収集等に関するレポートとその発表により、評価する。シラバスの担当部分に関して各分担者が評価し、後に担当者全員で合議の上、最終的な成績評価を行う。				

教 育 相 談

授 業 科 目 名	「子どもの生活と行動」実態分析論			
教員免許状取得のための	選択科目	授業形態	講義・オムニバス	単位数 2単位
担 当 教 員 名	佐藤 静・宮前 理・関口 博久・村上 由則			
授 業 の 到 達 目 標 及 び テ ー マ	<p>教育相談の観点から、配慮や支援を必要とする児童生徒の「困難」等の背景要因や、その顕現に介在するさまざまなメカニズムを分析・検討する意義と方法について理解する。教育・発達科学等の専門領域をふまえ、従来の指導内容方法と特別な配慮や支援を必要とする児童生徒の「困難」等との関係についての分析・検討ができる。あわせて、観察や評価・検査結果等を指導内容・方法と「困難」等の分析・検討に活用する意義を理解することができる。</p> <p>実際に収集した資料をもとに、特別な配慮や支援を必要とする児童生徒の「困難」等の実態を分析・検討し、共有情報として活用することで、多角的な児童生徒の理解が可能であることを教員等指導者間で共通に認識できる。</p> <p>この授業を通して、学校現場における適応上の配慮や支援を必要とする児童生徒の困難の背景要因やメカニズムを多角的に理解し、教員間で共有すべき生徒指導や教育相談における支援の視点及び方法を身につける。</p>			
授 業 の 概 要	<p>この授業では「実態把握論」で学習した資料や知識等を土台として、教育相談（適応支援領域・特別支援領域）の観点から、配慮や支援を必要とする児童生徒の実態の背景要因やメカニズム等について講義・演習を通して理論的に学ぶ。児童生徒の「つまずき」や「困難」等の背景要因やメカニズム等について理解するとともに、分析や評価、検討の方法等について知識を深める。さらに演習を通して学校生活全体を通した指導内容・方法と児童生徒の適応との関係や支援方法について、体験的学習を行う。</p>			
授 業 計 画	1	オリエンテーション		
	2	配慮や支援を必要とする児童生徒の教育相談や指導に関わる背景要因や影響メカニズムの理解①：資料収集の枠組みの設定		
	3	配慮や支援を必要とする児童生徒の教育相談や指導に関わる背景要因や影響メカニズムの理解②：第3次資料収集と内容検討（1）		
	4	配慮や支援を必要とする児童生徒の教育相談や指導に関わる背景要因や影響メカニズムの理解③：第3次資料収集と内容分析（2）		
	5	背景要因や影響メカニズム解明のための観察法，教育・発達評価，検査等の演習と実習①		
	6	背景要因や影響メカニズム解明のための観察法，教育・発達評価，検査等の演習と実習②		
	7	背景要因や影響メカニズム解明のための観察法，教育・発達評価，検査等の演習と実習③		
	8	教科・教育科学領域をふまえた指導と実態との関係についての理解①：第3次資料の分析と解釈		
	9	教科・教育科学領域をふまえた指導と実態との関係についての理解②：背景要因の理解と指導法（1）		
	10	教科・教育科学領域をふまえた指導と実態との関係についての理解③：背景要因の理解と指導法（2）		
	11	教科・教育科学領域をふまえた指導と実態との関係についての理解④：背景要因の理解と指導法（3）		
	12	実態分析の成果の総括①：実態把握から分析，指導法への連関の総括		
	13	実態分析の成果の総括②：配慮や支援を必要とする児童生徒の実態分析の意義の総括		
	14	実態分析の成果の総括③：配慮や支援を必要とする児童生徒の実態分析の方法論の総括		
	15	実態分析の総括と成果発表：収集資料に基づく実態把握の成果に関する発表		
教科書・参考書等	当該大学院生の関心にに基づき，その都度提示する。			
評 価 の 観 点	学校現場における配慮や支援を必要とする児童生徒の困難の背景要因やメカニズムに関する多角的理解及び教員間で共有すべき生徒指導や教育相談における支援の視点及び方法に関する学習の到達度により評価する。			
成 績 の 評 価 方 法	資料収集等に関するレポートとその発表により，評価する。シラバスの担当部分に関して各分担者が評価し，後に担当者全員で合議の上，最終的な成績評価を行う。			

学 級 ・ 学 校 経 営

授 業 科 目 名	学級・学校経営研究A (学校マネジメント基礎)				
教員免許状取得のための	選択科目	授業形態	複数 (チーム ティーチング)	単位数	2 単位
担 当 教 員 名	本図愛実、我妻良行、藤代正倫、菊池 均、小澤 晃				
授 業 の 到 達 目 標 及 び テ ー マ	<p>学校ミドルリーダーとしてのスキル形成に必須である、学級・学校経営の基礎的事項を修得し、子ども・保護者・地域社会から信頼される学校経営についてグランドデザインを作成することができる。ストレートマスターにおいては、学級経営の基礎的事項を発展的に学校経営を捉えることができる。</p>				
授 業 の 概 要	<p>学校と教員の観点からこれまでの教育活動について振り返りつつ、地域から信頼される学校経営のための基礎的事項として、学校組織マネジメント、危機管理 (リスク/クライシスマネジメント)、諸機関との連携による生徒指導、今日的な教育課題 (防災教育) について学ぶ。地域教育機関の訪問調査研究もとりいれる。</p>				
授 業 計 画	1	ガイダンスーキャリア形成についてのメタ認知			
	2	ミドルリーダーの役割とその制度的背景			
	3	防災教育の在り方ー大川小学校事故検証報告書からの考察			
	4	防災教育の在り方ー現地学習			
	5	地域協働による防災教育			
	6	諸機関との連携による生徒指導			
	7	学校組織マネジメントの基礎理論と学校評価			
	8	望ましい学級集団づくりと年間計画			
	9	学校安全の課題と対応			
	10	研修技法の基礎理解			
	11	特別な支援を要する子ども達の集団づくり観察			
	12	地域教育資源活用調査研究			
	13	地域教育資源活用調査研究・班別討議			
	14	調査研究の全体共有			
	15	まとめーグランドデザインの作成			
教 科 書 ・ 参 考 書 等	各授業時の学習テーマに応じて、その都度提示する。				
評 価 の 観 点	授業の参加や議論に対する主体性、積極性、基礎的事項の習得の度合い、作成したグランドデザインの完成度によって評価する。				
成 績 の 評 価 方 法	平常点、授業時に課される課題への取り組み、レポート等により評価する。				

学 級 ・ 学 校 経 営

授 業 科 目 名	学級・学校経営研究B（学校マネジメント習熟）				
教員免許状取得のための	選択科目	授業形態	複数（チーム ティーチング）	単位数	2単位
担 当 教 員 名	本図愛実、我妻良行、藤代正倫、菊池 均、小澤 晃				
授 業 の 到 達 目 標 及 び テ ー マ	学級・学校経営の基礎的事項、発展的事項の中心的事項（習熟レベル）を学び、学校の危機管理等、健全な学校経営のための具体的対応を考察できる。				
授 業 の 概 要	カリキュラムマネジメントの推進など教育経営に関する改革の動向をふまえつつ、学校コンプライアンス、人材育成、危機管理（リスク/クライシスマネジメント）、カリキュラムマネジメント、キャリア教育、地域協働型の学校経営について、事例に基づきながら考察する。				
授 業 計 画	1	ガイダンス			
	2	学校コンプライアンスの基礎理論			
	3	毎日の教育活動を見直すー授業の観点から			
	4	毎日の教育活動を見直すー人材育成の観点から			
	5	児童生徒理解の理論と技法			
	6	ブリーフセラピーの応用ー不登校支援			
	7	ブリーフセラピーの応用ー人材育成			
	8	学校の危機管理			
	9	リスクマネジメントーいじめ防止対策			
	10	クライシスマネジメント事例研究ー校外引率中の事故			
	11	クライシスマネジメント事例研究ー管理職不在時の事故			
	12	協働型学校経営の理論と効果			
	13	これからの学校経営と深い学び			
	14	これからの学校経営とカリキュラムマネジメント			
	15	まとめ			
教科書・参考書等	各授業時の学習テーマに応じて、その都度提示する。				
評 価 の 観 点	授業の参加や議論に対する主体性、積極性、理解の度合いによって評価する。				
成 績 の 評 価 方 法	授業や授業時に課す課題への取組により総合的に評価する。				

学 級 ・ 学 校 経 営

授 業 科 目 名	学級・学校経営研究C（学校マネジメント発展）				
教員免許状取得のための	選択科目	授業形態	複数（チーム ティーチング）	単位数	2単位
担 当 教 員 名	我妻良行、本図愛実、藤代正倫、菊池 均、小澤 晃				
授 業 の 到 達 目 標 及 び テ ー マ	学校ミドルリーダーに必須である、学級・学校経営の発展的事項を修得し、現代的課題や社会的要請に対応できる学校経営のモデルを考案することができる。				
授 業 の 概 要	地方教育行政の理解、児童生徒理解、学力向上のための組織づくり、学校安全、地域教育機関の実態について学び、地域協働による包括的な生徒指導体制の在り方、学力向上を可能にする組織づくりについて検討する。				
授 業 計 画	1	ガイダンス			
	2	地方教育行政制度の意義と課題			
	3	学校コンプライアンス			
	4	学力向上に取り組む特色ある学校経営－現地学習			
	5	学力向上に取り組む特色ある学校経営－現地学習			
	6	学力向上に取り組む特色ある学校経営－現地学習			
	7	児童生徒の問題行動への対応－児童相談所での現地学習			
	8	児童虐待への対応－児童相談所での現地学習			
	9	包括的な生徒指導体制の在り方			
	10	学力学習状況調査の分析と対応			
	11	校内研究の推進			
	12	教職員の職能成長とメンタルヘルス			
	13	タイムマネジメント			
	14	学力向上を実現する組織づくり・戦略マップの作成			
	15	学力向上を実現する組織づくり・戦略マップの提案			
教 科 書 ・ 参 考 書 等	各授業時の学習テーマに応じて、その都度提示する。				
評 価 の 観 点	授業の参加や議論に対する主体性、積極性、発展的事項の理解、作成したモデルの完成度によって評価する。				
成 績 の 評 価 方 法	授業への取組、レポート提出により総合的に評価する。				

学級・学校経営

授業科目名	学級・学校経営研究D（初歩）				
教員免許状取得のための	選択科目	授業形態	一部ティームティーチング，一部オムニバス	単位数	2単位
担当教員名	我妻良行，本図愛実，藤代正倫，菊池 均，小澤 晃，大沼 あゆみ				
授業の到達目標及びテーマ	学習活動の基盤となる学級集団づくりにおいて、子どもとの信頼関係を築き、規律ある学級経営を行うための基本的知識とスキルを習得する。				
授業の概要	学級経営の基本的知識を確認し、事例分析とともにスキルの習得を目指す。学校・教員に対する法規、学級びらき、学年経営、保護者対応、地域連携、生徒指導、子ども理解について考察する。				
授業計画	1	ガイダンス			
	2	教育法規とコンプライアンス			
	3	学級・学校経営の調査研究①(学級経営)			
	4	学級・学校経営の調査研究②(PTA総会)			
	5	学級・学校経営の調査研究③(学年経営)			
	6	生徒指導の基礎理論			
	7	望ましい学級集団づくり			
	8	特別な支援を要する児童生徒への対応①			
	9	特別な支援を要する児童生徒への対応②			
	10	特別な支援を要する児童生徒への対応②			
	11	不登校・クレーム等への対応			
	12	学校安全ーアレルギーへの対応			
	13	学校の危機管理といじめ対応①			
	14	学校の危機管理といじめ対応②			
	15	まとめー望ましい学級集団をどう作るか			
教科書・参考書等	毎回の授業テーマに基づき，その都度提示する。				
評価の観点	授業の参加や議論に対する主体性、積極性、基礎的事項の習得の度合いから評価する。				
成績の評価方法	授業や授業時に課す課題への取組により総合的に評価する。				

学 校 教 育 ・ 教 職 研 究

授 業 科 目 名	学校教育・教職研究A（防災教育）				
教員免許状取得のための	選択科目	授業形態	複数（チーム ティーチング）	単位数	2単位
担 当 教 員 名	梨本 雄太郎、本図 愛実、我妻 良行、小澤 晃				
授 業 の 到 達 目 標 及 び テ ー マ	震災の経験を多面的に理解し、さまざまな施策・事例や災害対応シミュレーションをふまえたうえで、地域協働による防災教育の計画を立案し、安全な学校づくりの見通しをもつことができる。				
授 業 の 概 要	多様な専門分野の教員が担当し、学外での授業（見学・調査）、各種防災プログラムの体験学習、地域協働防災計画づくりのワークショップなどをおこなう。現職教員は勤務校の所在地における災害の歴史や副読本の内容の検討、ストレートマスターは学校での避難訓練の観察などを中心に、リスクマネジメント・クライシスマネジメントの基礎を学ぶ。				
授 業 計 画	1	ガイダンス			
	2	地域協働防災計画の実際			
	3	被災学校・地域の実態把握①			
	4	被災学校・地域の実態把握②-現地学習-			
	5	防災に関する専門機関との連携①-現地学習-			
	6	防災に関する専門機関との連携②-防災教育ワークショップの体験-			
	7	防災に関する専門機関との連携③-防災教育手法の開発-			
	8	学校安全、給付制度のしくみ			
	9	防災教育プログラムの実際①-先進校の取り組み-			
	10	防災教育プログラムの実際②-避難訓練の省察-			
	11	地域協働防災計画の作成①			
	12	地域協働防災計画の作成②			
	13	地域協働防災計画の検討①			
	14	地域協働防災計画の検討②			
	15	まとめ			
教科書・参考書等	第1回目のガイダンスにて別途指示する。				
評 価 の 観 点	授業等の参加における主体性・積極性、授業内容の理解度、プレゼンテーションの内容・水準				
成 績 の 評 価 方 法	各回の授業内容の理解、レポート作成やプレゼンテーションなどをまとめたポートフォリオの提出に基づき評価する。				

学 校 教 育 ・ 教 職 研 究

授 業 科 目 名	学校教育・教職研究B（地域協働）			
教員免許状取得のための	選択科目	授業形態	単独	単位数 2単位
担 当 教 員 名	梨 本 雄 太 郎			
授 業 の 到 達 目 標 及 び テ ー マ	学校外を含む多様な教育や学習の理論と実際をふまえ、教育をとらえる幅広い視野・柔軟な思考・創造的な問題解決への志向をもつことができる。			
授 業 の 概 要	学校教育の役割や教師の職務について本質的な考察を進めるにあたって、本授業では地域や家庭など学校の外部の視点に立ち、そこから学校や教師のあり方を見つめ直すものとする。「地域協働」をめざす教育の理論と実際を学んでいく中で、教師が生涯にわたって成長し、学校の教育実践を変革していく展望を各参加者がもつことができるよう配慮する。			
授 業 計 画	1	オリエンテーション―「外」の視点から学校教育を問い直す		
	2	学校外の教育・学習の概要(1)―制度的アプローチ		
	3	学校外の教育・学習の概要(2)―実践的アプローチ		
	4	社会教育の活動事例(1)―子ども・若者の学習		
	5	社会教育の活動事例(2)―成人の学習		
	6	連携・協働に関する政策的議論		
	7	連携・協働を考える基本的視座：子どもの成長・発達の包括的理解		
	8	社会教育施設と学校との連携・協働		
	9	地域住民・保護者と学校との連携・協働		
	10	参加者の実践事例の検討①		
	11	参加者の実践事例の検討②		
	12	参加者の実践事例の検討③		
	13	防災教育における地域との協働①		
	14	防災教育における地域との協働②		
	15	授業のまとめ：協働による問題解決の意義と課題		
教 科 書 ・ 参 考 書	参加者の関心に基づき、その都度提示する。			
評 価 の 観 点	講義内容に基づいて自らの経験や思考のあり方をふり返り、教師や学校の役割を創造的に展望できるかどうかを評価の際に重視する。			
成 績 の 評 価 方 法	授業への出席状況とレポートにより、総合的に評価する。			

学 校 教 育 ・ 教 職 研 究

授 業 科 目 名	学校教育・教職研究C（リーガルマインド）				
教員免許状取得のための	選択科目	授業形態	複数	単位数	2単位
担 当 教 員 名	梨本雄太郎、熊野充利、笹村恵司、本図愛実				
授 業 の 到 達 目 標 及 び テ ー マ	コンプライアンスをふまえつつ、リーガルマインドに基づく学級・学校経営の在り方について、具体的な事例から考えることができる。				
授 業 の 概 要	教職や学校経営に関する法令の規程内容と規範について具体的な事例から考察する。教育法の体系、人事管理、教育課程、学校事故、法令違反や法律上のトラブルが起きやすい事項を取り上げる。				
授 業 計 画	1	教育関係法令の体系と学校			
	2	コンプライアンスのための組織づくり			
	3	教員の職務とサービス			
	4	教員の職務とサービス（課題解決）			
	5	学校教育活動の根拠			
	6	学校教育活動の根拠（課題解決）			
	7	事例研究①（危機管理の要点）			
	8	事例研究②（学校安全計画）			
	9	事例研究③（防災）			
	10	事例研究④（個人情報保護）			
	11	事例研究⑤（いじめ・不登校）			
	12	事例研究⑥（懲戒・体罰）			
	13	事例研究⑦（ハラスメント）			
	14	事例研究⑧（地域からの信頼）			
	15	まとめ			
教 科 書 ・ 参 考 書	『必携教育関係法規平成28年版 宮城県』第一法規、2016年（編集協力宮城県）				
評 価 の 観 点	授業の参加や議論に対する主体性、積極性、法令理解の度合いによって評価する。				
成 績 の 評 価 方 法	授業や授業時に課す課題への取組により総合的に評価する。				

学 校 教 育 ・ 教 職 研 究

授 業 科 目 名	学校教育・教職研究D（初歩）				
教員免許状取得のための	選択科目	授業形態	オムニバス	単位数	2単位
担 当 教 員 名	小澤 晃、我妻 良行、大沼 あゆみ、藤代 正倫、菊池 均				
授 業 の 到 達 目 標 及 び テ ー マ	教職経験を持たないストレートマスターが授業づくりについて基礎的な視点を理解し、授業力向上のための方法を学びとる。				
授 業 の 概 要	この授業は、学校における教職経験を持たない受講者を対象とし、教職の全体構造、教職を担うための基礎的事項と、基本的な授業の在り方・進め方について学習する。				
授 業 計 画	1	ガイダンスー ー学校での実習から何を学ぶか（学習指導と児童生徒理解）			
	2	授業づくりⅠー指導案の作成についてー			
	3	授業づくりⅡー教材研究とはー			
	4	授業づくりⅢー模擬授業の在り方・生かし方ー			
	5	授業で大切にしたいことⅠー学習課題の持たせ方・設定の仕方ー			
	6	授業で大切にしたいことⅡー学びが深まる場面をつくるー			
	7	授業で大切にしたいことⅢー学習のまとめ・習熟・振り返りー			
	8	授業をみる目を鍛えるⅠー授業記録の作成の仕方ー			
	9	授業をみる目を鍛えるⅡー授業を振り返る・評価シートの活用ー			
	10	指導技術を磨くⅠー発問・指名ー			
	11	指導技術を磨くⅡー板書・ノート指導ー			
	12	指導技術を磨くⅢー児童生徒への配慮・支援ー			
	13	学び合える教室をつくるⅠー学習形態の工夫ー			
	14	学び合える教室をつくるⅡー話し合いの条件整備ー			
	15	まとめ			
教 科 書 ・ 参 考 書	授業開始時に資料を配布する。授業の進捗に併せて参考書等を紹介する。				
評 価 の 観 点	教職に関する基礎的事項が習得できたかという観点から評価する。				
成 績 の 評 価 方 法	平常点、授業時の小テスト、レポート等により評価する。				

学 校 教 育 ・ 教 職 研 究

授 業 科 目 名	学校教育・教職研究E（初歩）				
教員免許状取得のための	選択科目	授業形態	複数	単位数	2単位
担 当 教 員 名	小澤 晃、我妻 良行、大沼 あゆみ、藤代 正倫、菊池 均				
授 業 の 到 達 目 標 及 び テ ー マ	学校における効果的な実習を目指し、必要な理論・知識をもとに、実習の事前準備及び事後の反省より授業づくりの在り方を考察する。				
授 業 の 概 要	この授業は、学校における教職経験を十分に持たない受講者を対象とし、学校における実習の在り方・進め方・実習結果の検証等について、具体的事例に基づき考察する。				
授 業 計 画	1	ガイダンス・指導案の作成 I			
	2	指導案の作成 II			
	3	指導案の検討 I			
	4	指導案の検討 II			
	5	授業研究 I （模擬授業）			
	6	授業研究 II （模擬授業）			
	7	授業研究 III （模擬授業）			
	8	授業研究 IV （模擬授業）			
	9	実践的授業研究 I （基礎実践研究 I の指導案検討，互いの授業構想から学ぶ）			
	10	実践的授業研究 II （基礎実践研究 I の指導案検討，互いの授業構想から学ぶ）			
	11	実践的授業研究 III （基礎実践研究 I での実践を通し，互いの授業から学ぶ）			
	12	実践的授業研究 IV （基礎実践研究 I での実践を通し，互いの授業から学ぶ）			
	13	実践的授業研究 V （基礎実践研究 I での実践を通し，互いの授業から学ぶ）			
	14	実践的授業研究 VI （基礎実践研究 I での実践を通し，互いの授業から学ぶ）			
	15	学修のまとめ			
教 科 書 ・ 参 考 書	授業開始時に資料を配布する。授業の進捗に併せて参考書等を紹介する。				
評 価 の 観 点	講義および実習での実践等を通して、意欲的に課題を解決しようとしていたかを評価する。				
成 績 の 評 価 方 法	演習時の作成資料および発表内容、レポート等により評価を行う。				

学 校 教 育 ・ 教 職 研 究

授 業 科 目 名	学校教育・教職研究F（組織と問題解決）				
教員免許状取得のための	選択科目（集中講義） ※10年程度の教職経験のある現職教員学生対象科目	授業形態	複数（オムニバス）	単位数	2単位
担 当 教 員 名	梨本雄太郎、本岡愛実、我妻良行、田幡憲一、小澤 晃、大沼 あゆみ				
授 業 の 到 達 目 標 及 び テ ー マ	<ul style="list-style-type: none"> ・経営学的手法を用いて分析した結果に基づいて抽出した強みと課題から、学校の中期的な目標を設定し、目標達成に向けた活動計画を立案することができる。 ・学校の強みと課題、及び中期的な改善の目標と達成に向けた計画を明快に説明するとともに、計画達成に向けた協働的組織を牽引することができる。 				
授 業 の 概 要	<p>独立行政法人教員研修センターの開催する研修会にて、本学教員の指導のもとに資料を収集し、「学級・学校経営研究A」で作成した学校経営のグランドデザインと独立行政法人教員研修センターで収集した資料をもとに、原籍校の改善に向けた中期的な目標とその達成に向けた改善計画の立案、及びその実施に向けた組織の設計を行う。</p>				
授 業 計 画	1	ガイダンス			
	2	原籍校の強みと課題の確認			
	3	教員の指導のもとに資料収集			
	4	教員の指導のもとに資料収集			
	5	教員の指導のもとに省察			
	6	教員の指導のもとに資料収集			
	7	教員の指導のもとに資料収集			
	8	教員の指導のもとに省察			
	9	教員の指導のもとに資料収集			
	10	教員の指導のもとに資料収集			
	11	教員の指導のもとに省察			
	12	教員の指導のもとに資料収集			
	13	教員の指導のもとに資料収集			
	14	教員の指導のもとに省察			
	15	教員の指導のもとに資料収集			
	16	教員の指導のもとに資料収集			
	17	教員の指導のもとに省察			
	18	改善計画と組織設計の立案（1）			
	19	改善計画と組織設計の立案（2）			
	20	改善計画と組織設計の立案（3）			
	21	プレゼンテーション			
	22	プレゼンテーション			
教 科 書 ・ 参 考 書					
評 価 の 観 点	<p>改善に向けて立案した計画が効果的、具体的且つ実施可能か。 改善に向けて立案した組織が計画の遂行に適切であり実施可能か。 改善計画に向けた組織の活動を明快且つ具体的に説明できるか。</p>				
成 績 の 評 価 方 法	（1）平常点、（2）プレゼンテーション、（3）レポート				

教科・領域専門バックグラウンド科目群

授 業 科 目 名	教育学特論・特演 A		単位数	2 単位
担 当 教 員 名	田 端 健 人	授業形態	単独・演習	
授 業 の 到 達 目 標 及 び テ ー マ	<p>(授業の到達目標) 以下のテーマに関して、自らを振り返り、事例を観察し、多面的な理解にいたること。 (テーマ) ①授業における探究のあり方、②探究のコミュニティとしての学級づくり、③コミュニティにおける教師の役割とリーダーシップ</p>			
授 業 の 概 要	<p>①授業タイプを4つに区分し、その代表的な事例を、映像や文字記録をもとに考察する。②子ども同士の横のつながりを重視する「探究のコミュニティ」を学び、それによる学級づくりについて考え合う。③こうしたコミュニティにおける教師の役割やリーダーシップを考えるために、ファシリテーションの手法や、サーバントリーダーシップの概念を学ぶ。</p>			
授 業 計 画	1	イントロダクション		
	2	授業タイプの区分 (1) 教師主導の授業		
	3	授業映像の視聴と記録、ディスカッション (1)		
	4	授業タイプの区分 (2) 子どもの問いを中心とした授業		
	5	授業映像の視聴と記録、ディスカッション (2)		
	6	授業タイプの区分 (3) 子どもの問いと討論を中心とした授業		
	7	授業の文字記録をもとにディスカッション (3)		
	8	授業タイプの区分 (4) 探究のコミュニティにおける対話の授業		
	9	授業映像の視聴と記録、ディスカッション (4)		
	10	「探究のコミュニティ」について		
	11	「ファシリテーション」について		
	12	教師のリーダー論：「サーバントリーダーシップ」について		
	13	災害時の教師のリーダーシップを考える (1)		
	14	災害時の教師のリーダーシップを考える (2)		
	15	まとめ		
教科書・参考書等	適宜指示する。			
評 価 の 観 点	話し合い・観察・読解・論述における、話す・聞く・見る・読む・書くの質を、評価の観点とする。			
成 績 の 評 価 方 法	出席状況、演習への取り組み、課題の達成度による総合評価。			

教科・領域専門バックグラウンド科目群

授 業 科 目 名	教育学特論・特演B（平成29年度開講せず）		単位数	2単位
担 当 教 員 名	田 端 健 人	授業形態	単独	
授 業 の 到 達 目 標 及 び テ ー マ	この授業のテーマは、①「人格」と「社会性」の成長に関する理論的な知見を学ぶこと、②人格と社会性の成長における「表現」と「理解」の契機を、理論的に理解すること、③新学習指導要領に関して、先行研究により知見を広げ、①②のテーマと関連づけること、④子どもの思考力や表現力、コミュニケーション能力を育成する授業づくりに関して、過去の事例から学び、構想できるようになることである。これらのテーマを研究するための知識と技能を身につけることが、この授業の到達目標である。			
授 業 の 概 要	教育学特論・特演Aの考察を発展させる。今日の多種多様な教育問題の根源として、子どもの人格や社会性の未成長と傷つきやすさに着目し、人間の人格や社会性を成長させる重要な契機として、「表現」と「理解」について考察する。この考察は、子どもの表現力や思考力を育てるという新学習指導要領の要求とも連動する。この要求を実現する具体的な授業づくりも検討する。			
授 業 計 画	1	イントロダクション		
	2	教育学特論・特演Aの振り返り－「今日の教育問題」－		
	3	問題の根源としての「人格」と「社会性」の未成長と傷つきやすさ		
	4	人間の成長にとっての「表現」と「理解」（1）－フロイトの症例－		
	5	人間の成長にとっての「表現」と「理解」（2）－フロイトの精神分析理論－		
	6	人間の成長にとっての「表現」と「理解」－教育人間学から－		
	7	「表現」と「理解」を考えるワークショップ（1）		
	8	「表現」と「理解」を考えるワークショップ（2）		
	9	「今日の教育問題」と「新学習指導要領」		
	10	新学習指導要領の読み方－OECDのDeSeCoプロジェクトとの関連で－		
	11	過去の教育実践に学ぶ（1）－島小学校の実践記録－		
	12	過去の教育実践に学ぶ（2）－島小学校における授業論－		
	13	表現力と思考力を育てる授業づくり（1）		
	14	表現力と思考力を育てる授業づくり（2）		
	15	まとめ		
教科書・参考書等	適宜指示する。			
評 価 の 観 点	(1) 授業で提示した基礎的知見の修得、(2) 紹介された理論や実践事例を自分の経験に引きつけて理解すること、(3) 自分の経験を丁寧に省察できるようになること、これらの観点により評価する。			
成 績 の 評 価 方 法	出席状況、授業への取り組み、小レポート等による総合評価。			

教科・領域専門バックグラウンド科目群

授 業 科 目 名	教育史特論・特演 A		単位数	2 単位
担 当 教 員 名	笠 間 賢 二	授業形態	単独	
授 業 の 到 達 目 標 及 び テ ー マ	<p>「教師および教師論に関する論文を読む」をテーマとして授業を進め、以下の諸点を到達目標とする。①受講者それぞれが、自らの内にある教職意識に気づき、それを分析的に整理できるようにする。②その教職意識を対象化する作業を行うことによって、教職意識の働き（作用）について、理解できるようにする。③その教職意識の内容と働きを、近代日本の大きな文脈のなかに位置づけることによって、近年の教職意識の揺らぎについて、理解を深められるようにする。④教職の現在と将来のあり様について考える。</p>			
授 業 の 概 要	<p>教師および教師論に関する論文を読んでいく。毎回、討議を重ねるゼミ形式で授業を進めていく。受講者が、自らの内にある教職意識に気づき、それを対象化し、その作用（働き）について理解できるようにしたい。また、それを歴史的な文脈のなかに位置づけることによって、近年の教職意識の揺らぎについて、構造的な理解を深められるようにしたい。「A（前期）」では教職意識等の形成と作用に重点をおき、「B（後期）」では近年の揺らぎに重点をおいて進めていきたい。</p>			
授 業 計 画	1	<p>以下のような主題を扱った複数の論文を読み、考察を進める際の材料とする。</p> <p>①教師像をめぐる問題 ②教師（員）文化をめぐる問題 ③教師のライフコースと職能成長をめぐる問題 ④教師の専門職性をめぐる問題</p>		
	2			
	3			
	4			
	5			
	6			
	7			
	8			
	9			
	10			
	11			
	12			
	13			
	14			
	15			
教科書・参考書等	教科書は使用しない。文献（論文）はその都度配付する。参考書等は随時紹介する。			
評 価 の 観 点	教職意識に気づき、それを対象化し、その作用（働き）について理解できるようになったかを判断し評価する。			
成 績 の 評 価 方 法	受講者の報告レポート（レジュメ）と最終レポートによる。			

教科・領域専門バックグラウンド科目群

授 業 科 目 名	教育史特論・特演 B		単位数	2 単位
担 当 教 員 名	笠 間 賢 二	授業形態	単独	
授 業 の 到 達 目 標 及 び テ ー マ	<p>「教師および教師論に関する論文を読む」をテーマとして授業を進め、以下の諸点を到達目標とする。①受講者それぞれが、自らの内にある教職意識に気づき、それを分析的に整理できるようにする。②その教職意識を対象化する作業を行うことによって、教職意識の働き（作用）について、理解できるようにする。③その教職意識の内容と働きを、近代日本の大きな文脈のなかに位置づけることによって、近年の教職意識の揺らぎについて、理解を深められるようにする。④教職の現在と将来のあり様について考える。</p>			
授 業 の 概 要	<p>教師および教師論に関する論文を読んでいく。毎回、討議を重ねるゼミ形式で授業を進めていく。受講者が、自らの内にある教職意識に気づき、それを対象化し、その作用（働き）について理解できるようにしたい。また、それを歴史的な文脈のなかに位置づけることによって、近年の教職意識の揺らぎについて、構造的な理解を深められるようにしたい。「A（前期）」では教職意識等の形成と作用に重点をおき、「B（後期）」では近年の揺らぎに重点をおいて進めていきたい。</p>			
授 業 計 画	1	<p>以下のような主題を扱った複数の論文を読み、考察を進める際の材料とする。</p> <p>①教師像をめぐる問題 ②教師（員）文化をめぐる問題 ③教師のライフコースと職能成長をめぐる問題 ④教師の専門職性をめぐる問題</p>		
	2			
	3			
	4			
	5			
	6			
	7			
	8			
	9			
	10			
	11			
	12			
	13			
	14			
	15			
教科書・参考書等	教科書は使用しない。文献（論文）はその都度配付する。参考書等は随時紹介する。			
評 価 の 観 点	教職意識に気づき、それを対象化し、その作用（働き）について理解できるようになったかを判断し評価する。			
成 績 の 評 価 方 法	受講者の報告レポート（レジュメ）と最終レポートによる。			

教科・領域専門バックグラウンド科目群

授 業 科 目 名	教育内容・方法特論・特演		単位数	2 単位
担 当 教 員 名	本 田 伊 克	授業形態	単独	
授 業 の 到 達 目 標 及 び テ ー マ	教育の内容と方法に関して、理論的・実践的な知識を獲得する。			
授 業 の 概 要	大きな柱として、①教育課程（カリキュラム）の構造と編成、②各教科、総合的な学習の時間、道徳など各指導領域に即した教育内容・教材の選択と配置、③教育方法の各点について、基本的な考え方を学ぶとともに、授業実践に応用できるようにする			
授 業 計 画	1	教育内容・方法を学ぶ意義		
	2	教育課程（カリキュラム）の構造と編成のポイント		
	3	学力とは何か		
	4	教育課程（カリキュラム）の内容領域と構成		
	5	教育内容と教材・教具（1）算数・数学		
	6	教育内容と教材・教具（2）国語		
	7	教育内容と教材・教具（3）社会科		
	8	教育内容と教材・教具（4）理科		
	9	教育内容と教材・教具（5）外国語		
	10	教育方法研究（1）工学的アプローチ		
	11	教育方法研究（2）羅生門的アプローチ		
	12	教育方法研究（3）学習集団づくり		
	13	個別テーマ報告とディスカッション（1）		
	14	個別テーマ報告とディスカッション（2）		
	15	これからの教育内容・方法をどうつくるか		
教科書・参考書等	講義時に必要な資料は配付する。			
評 価 の 観 点	①教育内容・方法について基本的知識および考え方を習得しているか②教育内容・方法についての知識および考え方を授業実践やカリキュラム編成・運営の実際と関連付けることができるか			
成 績 の 評 価 方 法	講義への参加状況、貢献度合い、課題によって総合的に評価する。			

教科・領域専門バックグラウンド科目群

授 業 科 目 名	臨床心理学特論・特演		単位数	2 単位
担 当 教 員 名	久 保 順 也	授業形態	単独	
授 業 の 到 達 目 標 及 び テ ー マ	臨床心理学の理論や技法について理解を深めることで、児童・生徒及びその保護者を対象として教員が援助・指導を行う際に、臨床心理学的視点からの理解に基づいた実践ができるようになることを目指す。			
授 業 の 概 要	講義や文献講読、事例検討や演習を通して、臨床心理学的視点・技法（特に家族療法や短期療法）について学び、それらを教育現場において実践する際の利点や注意点について考察する。			
授 業 計 画	1	臨床心理学的視点とは何か		
	2	臨床心理学の諸派：精神分析・人間中心療法		
	3	臨床心理学の諸派：行動療法・家族療法		
	4	家族療法・短期療法の視点		
	5	家族療法・短期療法の技法		
	6	事例から学ぶ：不登校児童生徒への支援		
	7	事例から学ぶ：非行少年への支援		
	8	事例から学ぶ：精神疾患のある児童生徒への支援		
	9	事例から学ぶ：児童生徒の家族への支援		
	10	臨床心理学的援助の実際：演習①		
	11	臨床心理学的援助の実際：演習②		
	12	臨床心理学的援助の実際：演習③		
	13	臨床心理学的援助の実際：演習④		
	14	臨床心理学的援助の実際：演習⑤		
	15	まとめ		
教科書・参考書等	教科書は指定しない。参考書は授業時に随時紹介する。			
評 価 の 観 点	臨床心理学的視点・技法を教育実践に応用することについて十分に考察できるようになったかを判断し評価する。			
成 績 の 評 価 方 法	授業への参加姿勢とレポートによる総合評価			

教科・領域専門バックグラウンド科目群

授 業 科 目 名	発達心理学特論・特演		単位数	2 単位
担 当 教 員 名	越 中 康 治	授業形態	単独	
授 業 の 到 達 目 標 及 び テ ー マ	発達心理学の理論や研究法について理解を深めることにより、幼児・児童・生徒に対する指導を行う際に、発達心理学的知見に基づいた実践ができるようになることを目指す。			
授 業 の 概 要	講義や文献講読・演習を通して、発達心理学の理論や研究法について学び、それらを教育現場における実践にいかに関わらせるかについて考察する。			
授 業 計 画	1	導入：発達とは何か		
	2	発達観の多様性：保育者と小学校教諭の共通性と差異性を例に		
	3	発達観の2つの潮流（ことばの発達を例に）①：経験主義		
	4	発達観の2つの潮流（ことばの発達を例に）②：理性主義		
	5	発達の古典理論（道徳性の発達を例に）①：精神分析的理論，社会的学習理論		
	6	発達の古典理論（道徳性の発達を例に）②：認知的発達理論		
	7	発達に関する理論の展開（道徳性の発達を例に）：社会的認知理論と社会的領域理論		
	8	発達の研究法①：観察法を中心に		
	9	発達の研究法②：実験法を中心に		
	10	発達心理学研究の実際：演習①		
	11	発達心理学研究の実際：演習②		
	12	発達心理学研究の実際：演習③		
	13	発達心理学研究の実際：演習④		
	14	発達心理学研究の実際：演習⑤		
	15	まとめ		
教科書・参考書等	教科書は使用しない。参考書は授業の中で紹介する。			
評 価 の 観 点	発達心理学を教育実践に応用することについて十分に考察できるようになったかを評価する。			
成 績 の 評 価 方 法	授業内で提示する小課題と最終課題により総合的に評価する。			

教科・領域専門バックグラウンド科目群

授 業 科 目 名	幼児教育特論・特演 A		単位数	2 単位
担 当 教 員 名	佐 藤 哲 也	授業形態	単独	
授 業 の 到 達 目 標 及 び テ ー マ	幼児教育学に関する研究論文や実践報告を教材にして、幼児教育の理念や実践をめぐる理論についての理解を深める。また就学前教育と小学校教育を連続の中で捉え、指導・援助していく方法について学ぶ。			
授 業 の 概 要	幼児教育の理念や歴史的背景、幼児期から児童期にかけての家庭や地域における子育て支援、幼保小連携について焦点を当てる。			
授 業 計 画	1	保育とは何か		
	2	少子社会日本の子育て		
	3	早期教育の功罪		
	4	幼児期の子育てをめぐる脳科学・認知科学		
	5	幼児教育の基本的視座		
	6	環境を通しての保育		
	7	幼児教育の指導方法		
	8	幼児教育のカリキュラム		
	9	幼稚園教育の思想と歴史 1		
	10	幼稚園教育の理論と歴史 2		
	11	幼稚園教育をめぐる今日的課題		
	12	幼保一元化への動きと子ども・子育て支援新制度		
	13	幼小連携の理論と展開 1		
	14	幼小連携の理論と展開 2		
	15	まとめ		
教科書・参考書等	《参考書》幼稚園教育要領解説（文部科学省）フレーベル館			
評 価 の 観 点	幼児教育の理念と幼児期の発達について、理論的に理解しているかどうかを判断・評価する。			
成 績 の 評 価 方 法	出席状況・討議の参加状況・レポートによる総合評価			

教科・領域専門バックグラウンド科目群

授 業 科 目 名	幼児教育特論・特演B		単位数	2単位
担 当 教 員 名	佐藤 哲也	授業形態	単独	
授 業 の 到 達 目 標 及 び テ ー マ	幼児教育をめぐる実践的職能の向上を目指していく。就学前教育と小学校教育を連続性を視野に入れた実践事例から、幼稚園教育や小学校低学年児童の指導法について理解する。			
授 業 の 概 要	幼児や行動観察、実践ビデオの視聴等を通して幼児理解を深め、多様な援助のあり方や実践方法を学ぶ。また、幼児教育における教師の役割について、人的環境としての教師の影響、保育環境構成と再構成、子どもの遊びの援助について学ぶ。幼稚園や保育所、小学校に足を運び、保育を参観する機会を設けたい。			
授 業 計 画	1	オリエンテーション（幼児教育に関する理論と実践）		
	2	人的環境としての保育者		
	3	保育実践のフィールドとしての室内環境		
	4	遊びの拠点としての制作コーナー		
	5	ままごとコーナーの理論と実際		
	6	屋外環境についての理論的視座		
	7	園庭での遊びを考える		
	8	幼稚園行事の実践的意義		
	9	保育参観1		
	10	保育参観2		
	11	保育参観3		
	12	保育参観4		
	13	保育参観5		
	14	実践から学ぶ幼児教育指導法		
	15	まとめ		
教 科 書 ・ 参 考 書 等	必要に応じてプリントを配付する。			
評 価 の 観 点	保育実践を評価するための基本的視座を確立できたかどうか判断・評価する。			
成 績 の 評 価 方 法	授業の参加状況・プレゼンテーション・レポートによる総合評価			

教科・領域専門バックグラウンド科目群

授 業 科 目 名	環境教育情報特論・特演A		単位数	2 単位
担 当 教 員 名	鵜 川 義 弘	授業形態	単独	
授 業 の 到 達 目 標 及 び テ ー マ	環境教育における情報の役割について理解し、環境教育の実戦面で役立つ情報コンテンツの利用と作成方法を習得する。			
授 業 の 概 要	以下の項目の中から受講者の希望を元に授業計画をたて、演習を伴いながら学ぶ。後期環境教育情報特論・特演Bと組み合わせ、別内容を計画し選択する。			
授 業 計 画	1	<p>環境と情報分野、生物と情報、環境教育教材 iPad, iPhone, Android, タブレットPCの教育的利用 電子黒板、McTivia, AppleTV, AirServer 画面共有ソフト TeamViewer他 大容量添付ファイルお預かりサービス EverNote, DropBox, GoogleDrive 定点カメラ、ネットワークカメラ、GPS付きカメラ ビデオ配信技術 GPSつき写真、地図との連携 地理情報システムGISの利用 スマートフォン、携帯ゲーム機を使った教材の開発 学内LAN構築、学内ファイルサーバの活用 無線ルータの利用 校内LANの活用と管理運営 サーバ構築、サーバ管理、Perl CGI e-Learning（遠隔学習）教材の利活用 プログラミング言語、データベース Excel自動実行マクロ</p>		
	2			
	3			
	4			
	5			
	6			
	7			
	8			
	9			
	10			
	11			
	12			
	13			
	14			
	15			
教科書・参考書等	メールで資料を送信したりWebページを設けて掲載する。			
評 価 の 観 点	学校での教育のために必要な情報関連についての理解ならびに技術の習得の程度に応じて評価する。			
成 績 の 評 価 方 法	毎回の授業で提出する出席兼レポートにより採点する。			

教科・領域専門バックグラウンド科目群

授 業 科 目 名	環境教育情報特論・特演B		単位数	2 単位
担 当 教 員 名	鵜 川 義 弘	授業形態	単独	
授 業 の 到 達 目 標 及 び テ ー マ	環境教育における情報の役割について理解し、環境教育の実戦面で役立つ情報コンテンツの利用と作成方法を習得する。			
授 業 の 概 要	以下の項目の中から受講者の希望を元に授業計画をたて、演習を伴いながら学ぶ。前期環境教育情報特論・特演Aと組み合わせ、別内容を計画し選択する。			
授 業 計 画	1	<p>環境と情報分野、生物と情報、環境教育教材 iPad, iPhone, Android, タブレットPCの教育的利用 電子黒板、McTivia, AppleTV, AirServer 画面共有ソフト TeamViewer他 大容量添付ファイルお預かりサービス EverNote, DropBox, GoogleDrive 定点カメラ、ネットワークカメラ、GPS付きカメラ ビデオ配信技術 GPSつき写真、地図との連携 地理情報システムGISの利用 スマートフォン、携帯ゲーム機を使った教材の開発 学内LAN構築、学内ファイルサーバの活用 無線ルータの利用 校内LANの活用と管理運営 サーバ構築、サーバ管理、Perl CGI e-Learning（遠隔学習）教材の利活用 プログラミング言語、データベース Excel自動実行マクロ</p>		
	2			
	3			
	4			
	5			
	6			
	7			
	8			
	9			
	10			
	11			
	12			
	13			
	14			
	15			
教科書・参考書等	メールで資料を送信したりWebページを設けて掲載する。			
評 価 の 観 点	学校での教育のために必要な情報関連についての理解ならびに技術の習得の程度に応じて評価する。			
成 績 の 評 価 方 法	毎回の授業で提出する出席兼レポートにより採点する。			

教科・領域専門バックグラウンド科目群

授 業 科 目 名	環境保全特論・特演 A		単位数	2 単位
担 当 教 員 名	芥 藤 千映美	授業形態	単独	
授 業 の 到 達 目 標 及 び テ ー マ	学校教育において環境保全を進める上で必要な考え方の基礎を紹介する。また、生物多様性教育の技能としての動物飼育法を身につける。			
授 業 の 概 要	講義、ディスカッション、脊椎動物の採集・入手法、飼育法を学ぶ。受講生の人数に応じて内容を変更することがある。			
授 業 計 画	1	ガイダンス		
	2	学校の動物飼育		
	3	動物の採集と入手法		
	4	動物の飼育Ⅰ 魚類		
	5	動物の飼育Ⅱ 鳥類 1		
	6	動物の飼育Ⅲ 鳥類 2		
	7	動物の飼育Ⅳ 鳥類 3		
	8	動物の飼育Ⅴ ウサギ 1		
	9	動物の飼育Ⅵ ウサギ 2		
	10	動物の飼育Ⅶ ウサギ 3		
	11	動物の飼育Ⅷ ヤギ 1		
	12	動物の飼育Ⅸ ヤギ 2		
	13	動物の飼育Ⅹ ヤギ 3		
	14	動物の飼育Ⅺ ヤギ 4		
	15	動物の飼育 まとめ		
教科書・参考書等	授業の中で指示する。			
評 価 の 観 点	環境保全における生物多様性の意義を理解し、その基礎である動物の調査と標本作製の技術が身に付いたことを判断し評価する。			
成 績 の 評 価 方 法	出席、受講の態度、レポート			

教科・領域専門バックグラウンド科目群

授 業 科 目 名	環境保全特論・特演B		単位数	2単位
担 当 教 員 名	芥 藤 千映美	授業形態	単独	
授 業 の 到 達 目 標 及 び テ ー マ	学校教育において環境保全を行う上で必要な考え方の基礎を紹介する。また、生物多様性教育の技能としての標本作製・利用法を身につける。			
授 業 の 概 要	動物標本の作成法を学び、教育施設での活用法を考察する。			
授 業 計 画	1	ガイダンス		
	2	様々な動物標本		
	3	標本作成の準備1		
	4	標本作成の準備2		
	5	標本の作製1		
	6	標本の作製2		
	7	標本の作製3		
	8	標本の作製4		
	9	標本の作製5		
	10	標本の作製6		
	11	標本の作製7		
	12	標本の作製8		
	13	標本の管理		
	14	標本の活用1		
	15	標本の活用2		
教科書・参考書等	授業の中で指示する。			
評 価 の 観 点	教材を作成し生物多様性学習に活用することができるようになったかを判断し評価			
成 績 の 評 価 方 法	出席、受講の態度、レポート			

教科・領域専門バックグラウンド科目群

授 業 科 目 名	環境教育実践特論・特演A（平成29年度開講せず）		単位数	2単位
担 当 教 員 名		授業形態	単独	
授 業 の 到 達 目 標 及 び テ ー マ				
授 業 の 概 要				
授 業 計 画	1			
	2			
	3			
	4			
	5			
	6			
	7			
	8			
	9			
	10			
	11			
	12			
	13			
	14			
	15			
教科書・参考書等				
評 価 の 観 点				
成 績 の 評 価 方 法				

教科・領域専門バックグラウンド科目群

授 業 科 目 名	環境教育実践特論・特演B（平成29年度開講せず）		単位数	2単位
担 当 教 員 名		授業形態	単独	
授 業 の 到 達 目 標 及 び テ ー マ				
授 業 の 概 要				
授 業 計 画	1			
	2			
	3			
	4			
	5			
	6			
	7			
	8			
	9			
	10			
	11			
	12			
	13			
	14			
	15			
教科書・参考書等				
評 価 の 観 点				
成 績 の 評 価 方 法				

教科・領域専門バックグラウンド科目群

授 業 科 目 名	自然環境教育特論・特演		単位数	2 単位
担 当 教 員 名	溝 田 浩 二	授業形態	単独	
授 業 の 到 達 目 標 及 び テ ー マ	本授業のテーマは、学校教育にける自然体験型環境教育である。身近な校庭の自然を活用した環境教育を行う上で必要な考え方および技能を習得する。			
授 業 の 概 要	宮城教育大学バタフライガーデンを主な実践フィールドとして、環境教育の理論と実践を学ぶ。 *受講者との話し合いにより、一部を集中講義とすることがある。			
授 業 計 画	1	自然体験の重要性		
	2	学校ビオトープの考え方（1）		
	3	学校ビオトープの考え方（2）		
	4	学校ビオトープの考え方（3）		
	5	学校ビオトープの作り方（1）		
	6	学校ビオトープの作り方（2）		
	7	学校ビオトープの作り方（3）		
	8	学校ビオトープの維持・管理（1）		
	9	学校ビオトープの維持・管理（2）		
	10	学校ビオトープの維持・管理（3）		
	11	学校ビオトープの活用法（1）		
	12	学校ビオトープの活用法（2）		
	13	学校ビオトープの活用法（3）		
	14	校庭における自然環境教育の実践		
	15	授業のまとめ		
教科書・参考書等	授業の中で指示する。			
評 価 の 観 点	校庭を活用した体験的環境教育を行うために必要な理論を理解し、学校教育現場において実践する力が身に付いたかどうかを判断し、評価する。			
成 績 の 評 価 方 法	出席状況、授業への取り組み、小レポート等による総合評価。			

教科・領域専門バックグラウンド科目群

授 業 科 目 名	視覚障害教育特演		単位数	2 単位
担 当 教 員 名	長 尾 博 ・ 永 井 伸 幸	授業形態	複数（オムニバス）	
授 業 の 到 達 目 標 及 び テ ー マ	到達目標：視覚に障害がある乳幼児や児童生徒の心理・生理・病理及び適切な支援・教育・指導法について理解を深める。 テーマ：視覚障害児・者に対する理解と支援			
授 業 の 概 要	視覚に障害のある乳幼児や児童生徒の心理的特性や生理・病理、及び、適切な支援・教育指導の方法について講述し、課題の検討を通して理解を深める。			
授 業 計 画	1	視覚障害児（弱視を中心に）の教材・教具（1）		
	2	視覚障害児（弱視を中心に）の教材・教具（2）		
	3	視覚障害児（弱視を中心に）の教材・教具（3）		
	4	視覚障害児（弱視を中心に）の教材・教具（4）		
	5	課題の検討①		
	6	視機能評価 1（永井）		
	7	視機能評価 2（永井）		
	8	視機能評価に基づいた支援（永井）		
	9	聴覚と触覚の機能評価と支援（永井）		
	10	課題の検討②（永井）		
	11	視覚障害乳幼児の発達と支援（長尾）		
	12	地域校における視覚障害在籍児の支援と学級運営（長尾）		
	13	視覚障害児の教科教育の配慮と実際（長尾）		
	14	全盲児に対する自立活動の配慮と実際②（長尾）		
	15	課題の検討③（長尾）		
教科書・参考書等	教科書は使用しない。参考図書を適宜紹介する。			
評 価 の 観 点	視覚障害か人に及ぼす心理や発達の特徴、教育指導や支援の方法及び視機能評価等についての理解と、実際例における課題の検討ができるようになったかを判断し評価する。			
成 績 の 評 価 方 法	①授業の出席率 ②討論を含む授業貢献度 ③最終レポートの総合評価とする。			

教科・領域専門バックグラウンド科目群

授 業 科 目 名	発達障害教育特演		単位数	2 単位
担 当 教 員 名	植木田 潤	授業形態	単独	
授 業 の 到 達 目 標 及 び テ ー マ	<p>小・中学校や特別支援学校に在籍する発達障害及びその周辺領域にいる児童・生徒のニーズと学校・学級・教師の適切な対応について理解を深め、指導力を高める。</p> <p>テーマ –発達障害とその周辺領域の児童・生徒に対する理解と支援–</p>			
授 業 の 概 要	<p>知的障害、学習障害（LD）、注意欠如多動症（ADHD）、自閉スペクトラム症（ASD）、運動障害など、発達障害とその周辺領域の児童・生徒の問題理解と適切な支援について、講述、模擬授業、事例研究を通して理解を深める。</p>			
授 業 計 画	1	I インTRODクシヨN（オリエンテーション）		
	2	II 特殊教育から特別支援教育への転換		
	3	II 特別支援教育の子ども理解 ①関係性の視点からみた発達障害		
	4	II 特別支援教育の子ども理解 ②発達障害児の理解と支援（1）		
	5	II 特別支援教育の子ども理解 ③発達障害児の理解と支援（2）		
	6	II 特別支援教育の子ども理解 ④教材研究		
	7	II 特別支援教育の子ども理解 ⑤教材研究		
	8	関連企画・学校等 見学		
	9	III 特別支援教育の展開・応用 ①授業の展開と工夫（模擬授業その一）		
	10	III 特別支援教育の展開・応用 ②授業の展開と工夫（模擬授業その二）		
	11	III 特別支援教育の展開・応用 ③授業の展開と工夫（模擬授業その三）		
	12	IV インシデントプロセスによる事例検討 ①		
	13	IV インシデントプロセスによる事例検討 ②		
	14	IV インシデントプロセスによる事例検討 ③		
	15	V 発達障害をめぐる今日的課題（討論とまとめ）		
教科書・参考書等	特別支援教育への招待（教育出版） クラスの中の気になる子ども（教育出版）			
評 価 の 観 点	<p>幼児・児童・生徒の特別なニーズを把握し、ニーズに応じた支援方法を導き出すための視点と基本的なスキルを習得することができたか。</p>			
成 績 の 評 価 方 法	①授業の出席率 ②討論を含む授業貢献度 ③最終レポートの総合評価とする。			

教科・領域専門バックグラウンド科目群

授 業 科 目 名	聴覚・言語障害特演		単位数	2 単位
担 当 教 員 名	藤 島 省 太 ・ 菅 井 裕 行 ・ 松 崎 丈	授業形態	複数（オムニバス）	
授 業 の 到 達 目 標 及 び テ ー マ	聴覚・言語障害の領域なかでもことばやコミュニケーション障害にかかわる領域について、実践的立場から教育事象を把握し、課題を見抜き、問題解決にむけての手だてを構築していけるような、足場づくりが本授業の目標である。「コミュニケーションにおける相互障害状況からの立ち直りに向けてのアクション・リサーチについて」を本授業におけるテーマとする。			
授 業 の 概 要	聴覚・言語障害領域にかかわる実践研究を進めるに当たって必要な障害観，教育観，科学的態度，研究方法論等の問題について内外の知見を参考にしつつ演習を行う。			
授 業 計 画	1	オリエンテーション（藤島・菅井・松崎）		
	2	聴覚・言語障害をとりまく歴史（藤島）		
	3	音の性質と聴こえの問題（藤島）		
	4	聴覚と聴力検査（藤島）		
	5	聴覚・言語障害の今日的課題（藤島）		
	6	聴覚障害教育における コミュニケーション方法（菅井）		
	7	聴覚障害幼児のことばの発達（菅井）		
	8	重度・重複化への対応（菅井）		
	9	特別支援学校の教育課程（菅井）		
	10	聴覚障害児への手話使用を基盤とした日本語習得（松崎）		
	11	聴覚障害児への早期支援（松崎）		
	12	学齢期の聴覚障害児への教育支援（松崎）		
	13	聴覚障害者への高等教育支援（松崎）		
	14	総括討議 1（藤島・菅井・松崎）		
	15	総括討議 2（藤島・菅井・松崎）		
教科書・参考書等	適宜、紹介			
評 価 の 観 点	出席・レポート及び受講中の発言など総合的に判断して評価する。			
成 績 の 評 価 方 法	出席率 2 / 3 以上が評価対象。 出席率30%，受講中の質疑応答・発言内容40%，レポートあるいは試験30%として総合的に5段階で評価する。			

教科・領域専門バックグラウンド科目群

授 業 科 目 名	国語学特講		単位数	2 単位
担 当 教 員 名	遠 藤 仁	授業形態	単独	
授 業 の 到 達 目 標 及 び テ ー マ	言語単位が大きくなればなるほど研究も教育も難しくなるが、文章・文体という とらえどころのないものを自分のことばで論理的に説明できることを目指す。			
授 業 の 概 要	私たちは、新聞・雑誌・小説等々、さまざまなタイプの文章に接しながら日々の 言語生活を送っている。小説ひとつをとっても、それぞれの作品にはさまざまな個 性や味わいがあり、それらは書き手の体臭になぞらえることも多い。そうした文章 の個性や味わい、また性格の違いを支える要素とは、一体何であろうか。この授業 では、近・現代の文学作品を読みながら、文章・文体に関する基礎的知見を改めて 整理するとともに、語学的な立場から、文章の確かな読みを志向する際の留意点な どについても言及していく。			
授 業 計 画	1	日本語研究における文章・文体の位置		
	2	文章・文体の基礎知識(1)		
	3	文章・文体の基礎知識(2)		
	4	文章・文体の基礎知識(3)		
	5	作家の文体(1)		
	6	作家の文体(2)		
	7	作家の文体(3)		
	8	作家の文体(4)		
	9	作家の文体(5)		
	10	作家の文体(6)		
	11	作家の文体(7)		
	12	作家の文体(8)		
	13	作家の文体(9)		
	14	作家の文体(10)		
	15	まとめ		
教科書・参考書等	特に教科書は使用せず、プリントを配付する。			
評 価 の 観 点	文章の文体的性格を支える要素を理解し、的確に分析したうえで、自分自身のこと ばでまとめられるかどうかをみる。			
成 績 の 評 価 方 法	毎回の授業における小レポートと期末レポート課題により評価する。			

教科・領域専門バックグラウンド科目群

授 業 科 目 名	国文学特講（平成29年度開講せず）		単位数	2単位
担 当 教 員 名		授業形態	単独	
授 業 の 到 達 目 標 及 び テ ー マ				
授 業 の 概 要				
授 業 計 画	1			
	2			
	3			
	4			
	5			
	6			
	7			
	8			
	9			
	10			
	11			
	12			
	13			
	14			
	15			
教科書・参考書等				
評 価 の 観 点				
成 績 の 評 価 方 法				

教科・領域専門バックグラウンド科目群

授 業 科 目 名	漢文学特講（平成29年度開講せず）		単位数	2単位
担 当 教 員 名		授業形態	単独	
授 業 の 到 達 目 標 及 び テ ー マ				
授 業 の 概 要				
授 業 計 画	1			
	2			
	3			
	4			
	5			
	6			
	7			
	8			
	9			
	10			
	11			
	12			
	13			
	14			
	15			
教科書・参考書等				
評 価 の 観 点				
成 績 の 評 価 方 法				

教科・領域専門バックグラウンド科目群

授 業 科 目 名	国語科教育特講		単位数	2 単位
担 当 教 員 名	児玉 忠	授業形態	単独	
授 業 の 到 達 目 標 及 び テ ー マ	資質・能力の育成の観点から国語科教育の現代的な課題について各自がテーマをもち、先行実践例などに学びながらそのテーマに取り組むための知見を獲得する。			
授 業 の 概 要	これからの社会を生きるうえでの資質・能力を育成する観点から国語科教育の現代的課題を検討する。なかでも、「話すこと聞くこと」・「書くこと」・「読むこと」、および「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」を切り口に、それぞれの領域や事項においてどのような資質・能力が求められているか、そしてそれを育成するにはどのような教材や指導法が有効かなどについて、先行実践例などを参考にしながら考察を加えていく。			
授 業 計 画	1	ガイダンス		
	2	これからの社会において育てるべき資質・能力の理解(1)		
	3	これからの社会において育てるべき資質・能力の理解(2)		
	4	これからの社会において育てるべき資質・能力の理解(3)		
	5	国語科教育の現代的な課題 話すこと聞くこと(1)		
	6	国語科教育の現代的な課題 話すこと聞くこと(2)		
	7	国語科教育の現代的な課題 書くこと(1)		
	8	国語科教育の現代的な課題 書くこと(2)		
	9	国語科教育の現代的な課題 読むこと(1)		
	10	国語科教育の現代的な課題 読むこと(2)		
	11	国語科教育の現代的な課題 伝統的な言語文化(1)		
	12	国語科教育の現代的な課題 伝統的な言語文化(2)		
	13	国語科教育の現代的な課題 国語の特質(1)		
	14	国語科教育の現代的な課題 国語の特質(2)		
	15	まとめ		
教科書・参考書等	特に教科書は使用せず、プリントを配布したり参考図書を紹介したりする。			
評 価 の 観 点	資質・能力の育成の観点から国語科教育の現代的な課題について各自がテーマをもてかどうか、およびそのそのテーマに取り組むための知見を獲得できたかどうかをみる。			
成 績 の 評 価 方 法	毎回の授業における小レポートおよび、期末レポートなどにより総合的に評価する。			

教科・領域専門バックグラウンド科目群

授 業 科 目 名	歴史学特講		単位数	2 単位
担 当 教 員 名	堀 田 幸 義 ・ 田 中 良 英	授業形態	複数 (オムニバス)	
授 業 の 到 達 目 標 及 び テ ー マ	本特講では、様々なテーマに関する文献にふれることで歴史学に関する広範な知識を獲得するとともに、得られた専門知識を教育現場で活用できるような形で整理することが目標である。すなわち、「歴史学についての専門知識の獲得」および「教育現場での活用を念頭に置いた専門知識の整理」が学習のテーマとなる。			
授 業 の 概 要	担当教員および受講生の話し合いにより教科書を選定し、同書の研究内容について担当教員が自らの専門分野に即して研究史的な意義づけや解説を行い、かつ、その内容が小中高における教育内容とどのように結びついているのかについて補足説明を行っていく。受講生には講義内容に関するレポート等を課し、報告させることもある。			
授 業 計 画	1	ガイダンス		
	2	教科書の内容解説と教育実践に向けての補足説明①		
	3	教科書の内容解説と教育実践に向けての補足説明②		
	4	教科書の内容解説と教育実践に向けての補足説明③		
	5	教科書の内容解説と教育実践に向けての補足説明④		
	6	教科書の内容解説と教育実践に向けての補足説明⑤		
	7	教科書の内容解説と教育実践に向けての補足説明⑥		
	8	教科書の内容解説と教育実践に向けての補足説明⑦		
	9	教科書の内容解説と教育実践に向けての補足説明⑧		
	10	教科書の内容解説と教育実践に向けての補足説明⑨		
	11	教科書の内容解説と教育実践に向けての補足説明⑩		
	12	教科書の内容解説と教育実践に向けての補足説明⑪		
	13	教科書の内容解説と教育実践に向けての補足説明⑫		
	14	教科書の内容解説と教育実践に向けての補足説明⑬		
	15	教科書の内容解説と教育実践に向けての補足説明⑭		
教科書・参考書等	教科書・参考書等は授業の中で指示する。			
評 価 の 観 点	「歴史学についての専門知識の獲得」および「教育現場での活用を念頭に置いた専門知識の整理」が達成されたことをその程度に応じて評価する。			
成 績 の 評 価 方 法	出席状況、受講態度・発言、レポート等の課題を総合的に判断し評価する。			

教科・領域専門バックグラウンド科目群

授 業 科 目 名	地理学特講		単位数	2 単位
担 当 教 員 名	西 城 潔 ・ 佐々木 達	授業形態	複数（オムニバス）	
授 業 の 到 達 目 標 及 び テ ー マ	<p>地理学の基本命題である自然環境と人間との関係を分析する基本的能力を身に付ける。とくに持続可能な未来を考える上での基礎的能力である、自然環境と人間活動の相互関係を考える力を養成する。テーマは「持続可能な未来のための自然環境と人間活動」である。</p>			
授 業 の 概 要	<p>自然環境の地域的特性とりわけ、世界の自然環境を取り上げながら講義する。また人間活動については、人間活動の地域性に注目しながら、農業、工業、都市の地域的特性を講義する。これらの特徴を踏まえて両者の相互関係から生まれる環境問題の地域的特性を取り上げる。講義を受けながら、受講者は、環境問題について的小論文を作成する。</p>			
授 業 計 画	1	ガイダンス:持続可能な未来のための自然環境と人間活動(佐々木)		
	2	自然環境のメカニズム(世界～日本)①(西城)		
	3	自然環境のメカニズム(世界～日本)②(西城)		
	4	自然環境の保全の課題①(西城)		
	5	自然環境の保全の課題②(西城)		
	6	人間活動の地域特性(農業・工業と環境)①(佐々木)		
	7	人間活動の地域特性(農業・工業と環境)②(佐々木)		
	8	都市と環境(人工環境と自然環境) (佐々木)		
	9	農村と環境(環境負荷型農林業・環境保全型農林水産業) (佐々木)		
	10	環境問題の分析方法①(砂漠化のメカニズム) (佐々木)		
	11	環境問題の分析方法②(続・砂漠化のメカニズム) (佐々木)		
	12	環境問題の分析方法③(黄砂のメカニズム) (西城)		
	13	環境問題の分析方法④(自然災害) (西城)		
	14	環境問題の分析方法⑤(環境保全型農業) (佐々木)		
	15	受講者の小論文の報告(佐々木・西城)		
教科書・参考書等	ガイダンス時に文献リストを提示する。			
評 価 の 観 点	自然環境と人間活動との関係の分析に関する観点や手法が身についたかを判断し、評価する。			
成 績 の 評 価 方 法	授業での議論と小論文によって評価する。			

教科・領域専門バックグラウンド科目群

授 業 科 目 名	法学・政治学特講		単位数	2 単位
担 当 教 員 名	高 橋 脩 一 ・ 石 田 雅 樹	授業形態	複数 (オムニバス)	
授 業 の 到 達 目 標 及 び テ ー マ	法学・政治学についての複数のテーマを取り上げ、現代社会を分析・考察する力を養うと共に、教育現場で活用できる知識の獲得を目指す。			
授 業 の 概 要	現代社会における様々な問題を、法学的・政治学的に分析、検討する。受講生との話し合いによりテーマを設定し、それに即した文献を選定する。受講生は、選択した項目について文献に沿って報告し、教員が解説と補足説明を行った後、全員で討議をして理解を深める。			
授 業 計 画	1	ガイダンス		
	2	文献に基づく報告、解説・補足説明、討議 (1)		
	3	文献に基づく報告、解説・補足説明、討議 (2)		
	4	文献に基づく報告、解説・補足説明、討議 (3)		
	5	文献に基づく報告、解説・補足説明、討議 (4)		
	6	文献に基づく報告、解説・補足説明、討議 (5)		
	7	文献に基づく報告、解説・補足説明、討議 (6)		
	8	文献に基づく報告、解説・補足説明、討議 (7)		
	9	文献に基づく報告、解説・補足説明、討議 (8)		
	10	文献に基づく報告、解説・補足説明、討議 (9)		
	11	文献に基づく報告、解説・補足説明、討議 (10)		
	12	文献に基づく報告、解説・補足説明、討議 (11)		
	13	文献に基づく報告、解説・補足説明、討議 (12)		
	14	文献に基づく報告、解説・補足説明、討議 (13)		
	15	まとめ		
教科書・参考書等	教科書・参考書等は授業の中で指示する。			
評 価 の 観 点	「現代社会を分析・考察する力の養成」および、「教育現場で活用できる知識の獲得」が達成されたことをその程度に応じて評価する。			
成 績 の 評 価 方 法	参加状況及びレポートによる。			

教科・領域専門バックグラウンド科目群

授 業 科 目 名	経済学・社会学特講		単位数	2 単位
授 業 担 当 者	竹 内 洋	授業形態	単独	
授 業 の 到 達 目 標 及 び テ ー マ	社会科学の基礎的学問としての経済学および社会学の方法的視座に関して、社会科および公民科の土台形成の一領域として再構築することをめざす。			
授 業 の 概 要	学校の現場のみならず、家族、地域あるいは人間社会全体の基本構造を形成する人と人との「コミュニケーション」の問題に焦点を充てることによって、経済学的および社会学的方法の見地から現代社会の特質について考察を加える。			
授 業 計 画	1	この講義の目的・方法		
	2	経済学・社会学におけるコミュニケーション問題		
	3	経済学・社会学の基礎（1）		
	4	経済学・社会学の基礎（2）		
	5	経済学・社会学の基礎（3）		
	6	経済学・社会学におけるコミュニケーション（1）		
	7	経済学・社会学におけるコミュニケーション（2）		
	8	経済学・社会学におけるコミュニケーション（3）		
	9	中間総括		
	10	現代社会におけるコミュニケーションの経済学的・社会的検討（1）		
	11	現代社会におけるコミュニケーションの経済学的・社会的検討（2）		
	12	現代社会におけるコミュニケーションの経済学的・社会的検討（3）		
	13	学校現場の諸問題（1）		
	14	学校現場の諸問題（2）		
	15	まとめ		
教 科 書 ・ 参 考 書	ジンメル『貨幣の哲学』（白水社）、ミル『自由論』（光文社文庫）、菅野仁『教育幻想』（筑摩書房）その他			
評 価 の 観 点	社会学の基礎的理解が達成されたことをその程度に応じて評価する。経済学の基礎的理解が達成されたことをその程度に応じて評価する。			
成 績 の 評 価 方 法	講義参加の姿勢、発言内容、レポートの内容等による			

教科・領域専門バックグラウンド科目群

授 業 科 目 名	哲学・倫理学特講		単位数	2 単位
担 当 教 員 名	川 崎 惣 一	授業形態	単独	
授 業 の 到 達 目 標 及 び テ ー マ	現代の哲学及び倫理学の研究動向を踏まえつつ、教育現場が抱えている諸問題を考慮しながら、自分なりの意見とその根拠を明確に提示できるようにする。講義のテーマは、受講生の希望などを勘案しつつ現代世界における諸問題、たとえば「政治哲学」や「認知哲学」、「環境倫理」や「生命倫理」など、人文・社会・自然科学の新しい研究状況を踏まえたものを設定する。			
授 業 の 概 要	現代世界において問題となるさまざまなテーマについて哲学的にアプローチするのはどのようなやり方がふさわしいかについて考える。			
授 業 計 画	1	ガイダンス・テーマの設定		
	2	当該テーマに関する基本的な哲学・倫理学知識（1）		
	3	当該テーマに関する基本的な哲学・倫理学知識（2）		
	4	当該テーマに関する基本的な哲学・倫理学知識（3）		
	5	当該テーマに関連する具体的な事例と問題点の整理（1）		
	6	当該テーマに関連する具体的な事例と問題点の整理（2）		
	7	当該テーマに関連する具体的な事例と問題点の整理（3）		
	8	中間点での振り返り		
	9	当該テーマに関する哲学的なアプローチの検討（1）		
	10	当該テーマに関する哲学的なアプローチの検討（2）		
	11	当該テーマに関する哲学的なアプローチの検討（3）		
	12	当該テーマに関する哲学的なアプローチの検討（4）		
	13	学校現場の諸問題と関連して（1）		
	14	学校現場の諸問題と関連して（2）		
	15	まとめ		
教科書・参考書等	テーマ設定後、講義中に指示する			
評 価 の 観 点	哲学・倫理学の基礎的理解が達成されたことをその程度に応じて評価する。			
成 績 の 評 価 方 法	学期末に提出してもらうレポートに、出席状況を勘案して評価する。			

教科・領域専門バックグラウンド科目群

授 業 科 目 名	社会科教育特講		単位数	2 単位
担 当 教 員 名	松 岡 尚 敏 ・ 吉 田 剛	授業形態	複数（オムニバス）	
授 業 の 到 達 目 標 及 び テ ー マ	社会科教育学の研究成果と近年の実践動向を踏まえることによって、理論と実践とを統合させながら、自己の授業実践について客観的に分析する能力を育成するとともに、社会科授業改善の視点について省察することを通して、論理的かつ自律的に授業研究を行っていくことのできる自己研究能力の育成をめざす。			
授 業 の 概 要	これまでの自分自身の授業実践について、社会科教育学の研究成果や近年の学校現場における実践動向の中に位置づける活動を通して、社会科授業改善の視点について、理論的に俯瞰する。			
授 業 計 画	1	オリエンテーションー授業の概要説明		
	2	教育改革の動向と社会科授業改善の基本方針①		
	3	教育改革の動向と社会科授業改善の基本方針②		
	4	社会科教育学をめぐる近年の研究動向①		
	5	社会科教育学をめぐる近年の研究動向②		
	6	教育現場における社会科授業改善の動向①		
	7	教育現場における社会科授業改善の動向②		
	8	優れた社会科授業実践の分析①		
	9	優れた社会科授業実践の分析②		
	10	特色のある社会科授業実践の分析①		
	11	特色のある社会科授業実践の分析②		
	12	指導計画の作成と教材研究①		
	13	指導計画の作成と教材研究②		
	14	指導計画の作成と教材研究③		
	15	まとめー社会科授業研究の課題と展望		
教科書・参考書等	教科書：『小学校学習指導要領解説 社会編』『中学校学習指導要領解説 社会編』『高等学校学習指導要領解説 地理歴史編』『高等学校学習指導要領解説 公民編』			
評 価 の 観 点	授業改善の方針や研究動向について理解できる。計画性のある授業分析や教材研究ができる。			
成 績 の 評 価 方 法	平素の受講状況および数回の小レポートを総合して評価する。			

教科・領域専門バックグラウンド科目群

授 業 科 目 名	解析学特講		単位数	2 単位
担 当 教 員 名	佐 藤 得 志	授業形態	単独	
授 業 の 到 達 目 標 及 び テ ー マ	算数・数学における解析学教材を深く理解するために、教材の相応する解析学の原書・原典にあたり、それを読み解き、その内容を実際の授業に役立てることができるようになることを目標とする。			
授 業 の 概 要	教科専門力の一層の充実のため、解析学に関わる原書講読を二段階に分けて行う。それを受けて関数の領域及び解析学に関連する事柄に焦点を絞って小学校・中学校・高等学校の学習指導要領・教科書について検討を行い、また、教材研究についても取り扱う。			
授 業 計 画	1	講読する原書の簡単な紹介と講読の進め方について		
	2	解析学原書講読－ 1		
	3	解析学原書講読－ 2		
	4	解析学原書講読－ 3		
	5	解析学原書講読－ 4		
	6	講読内容のまとめのレポート作成		
	7	解析学原書講読－ 5		
	8	解析学原書講読－ 6		
	9	解析学原書講読－ 7		
	10	解析学原書講読－ 8		
	11	講読内容のまとめのレポート作成		
	12	小学校（中学校、高等学校）学習指導要領・教科書についての検討 1		
	13	小学校（中学校、高等学校）学習指導要領・教科書についての検討 2		
	14	小学校（中学校、高等学校）算数・数学教材の研究について		
	15	検討・研究のまとめのレポート作成		
教科書・参考書等	適宜指定する。			
評 価 の 観 点	原書講読の理解力とレポートの内容をその程度に応じて評価する。			
成 績 の 評 価 方 法	原書講読の理解力とレポートの内容			

教科・領域専門バックグラウンド科目群

授 業 科 目 名	代数学特講		単位数	2 単位
担 当 教 員 名	高 瀬 幸 一	授業形態	単独	
授 業 の 到 達 目 標 及 び テ ー マ	算数・数学における代数学教材を深く理解するために、教材の相応する代数学の原書・原典にあたり、それを読み解き、その内容を実際の授業に役立てることができるようになることを目標とする。			
授 業 の 概 要	教科専門力の一層の充実のため、代数学に関わる原書講読を二段階に分けて行う。それを受けて演算の領域及び代数学に関連する事柄に焦点を絞って小学校・中学校・高等学校の学習指導要領・教科書について検討を行い、また、教材研究についても取り扱う。			
授 業 計 画	1	講読する原書の簡単な紹介と講読の進め方について		
	2	代数学原書講読－ 1		
	3	代数学原書講読－ 2		
	4	代数学原書講読－ 3		
	5	代数学原書講読－ 4		
	6	講読内容のまとめのレポート作成		
	7	代数学原書講読－ 5		
	8	代数学原書講読－ 6		
	9	代数学原書講読－ 7		
	10	代数学原書講読－ 8		
	11	講読内容のまとめのレポート作成		
	12	小学校（中学校、高等学校）学習指導要領・教科書についての検討 1		
	13	小学校（中学校、高等学校）学習指導要領・教科書についての検討 2		
	14	小学校（中学校、高等学校）算数・数学教材の研究について		
	15	検討・研究のまとめのレポート作成		
教科書・参考書等	適宜指定する。			
評 価 の 観 点	授業の到達目標が達成されたことをその程度に応じて評価する。			
成 績 の 評 価 方 法	原書講読の理解力とレポートの内容			

教科・領域専門バックグラウンド科目群

授 業 科 目 名	幾何学特講		単位数	2 単位
担 当 教 員 名	鎌 田 博 行	授業形態	単独	
授 業 の 到 達 目 標 及 び テ ー マ	算数・数学における幾何学教材を深く理解するために、教材の相応する幾何学の原書・原典にあたり、それを読み解き、その内容を実際の授業に役立てることができるようになることを目標とする。			
授 業 の 概 要	教科専門力の一層の充実のため、幾何学に関わる原書講読を二段階に分けて行う。それを受けて図形領域及び幾何学に関連する事柄に焦点を絞って小学校・中学校・高等学校の学習指導要領・教科書について検討を行い、また、教材研究についても取り扱う。			
授 業 計 画	1	講読する原書の簡単な紹介と講読の進め方について		
	2	幾何学原書講読－ 1		
	3	幾何学原書講読－ 2		
	4	幾何学原書講読－ 3		
	5	幾何学原書講読－ 4		
	6	講読内容のまとめのレポート作成		
	7	幾何学原書講読－ 5		
	8	幾何学原書講読－ 6		
	9	幾何学原書講読－ 7		
	10	幾何学原書講読－ 8		
	11	講読内容のまとめのレポート作成		
	12	小学校（中学校、高等学校）学習指導要領・教科書についての検討 1		
	13	小学校（中学校、高等学校）学習指導要領・教科書についての検討 2		
	14	小学校（中学校、高等学校）算数・数学教材の研究について		
	15	検討・研究のまとめのレポート作成		
教科書・参考書等	適宜指定する。			
評 価 の 観 点	原書講読の理解力とレポートの内容をその程度に応じて評価する。			
成 績 の 評 価 方 法	原書講読の理解力とレポートの内容			

教科・領域専門バックグラウンド科目群

授 業 科 目 名	数学科教育特講		単位数	2単位
担 当 教 員 名	未 定	授業形態	単独	
授 業 の 到 達 目 標 及 び テ ー マ	算数・数学教育に関する基礎的文献を調べたり読んだりする方法を理解する。 算数・数学教育の今日的課題と自分自身の問題意識とを関連づけて、自分自身の研究課題を明確にする。 研究課題を検証する授業の構想を考察できるようにする。			
授 業 概 要	教職大学院にて参加者が研究課題としている分野の基礎理論を、指定されたテキストから選択し、レポートする。同時に、自分自身の課題をまとめ、自分自身の研究課題を明確にする。最終的には、研究課題を検証する授業の構想をまとめ、批判的に考察できるようにする。			
授 業 計 画	1	本講義のガイダンス		
	2	算数教育の基礎文献の輪読 1		
	3	算数教育の基礎文献の輪読 2		
	4	算数教育の基礎文献の輪読 3		
	5	算数教育の基礎文献の輪読 4		
	6	数学教育の基礎文献の輪読 1		
	7	数学教育の基礎文献の輪読 2		
	8	数学教育の基礎文献の輪読 3		
	9	数学教育の基礎文献の輪読 4		
	10	公開研究会に参加しての事後検討会 1		
	11	公開研究会に参加しての事後検討会 2		
	12	自分自身の研究課題とその授業化に関する考察 その1		
	13	自分自身の研究課題とその授業化に関する考察 その2		
	14	自分自身の研究課題とその授業化に関する考察 その3		
	15	自分自身の研究課題とその授業化に関する考察 その4		
教科書・参考書等	杉山吉茂「初等科数学科教育学序説」, 「中等科数学科教育学序説」, 東洋館出版社			
評 価 の 観 点	レポートの内容と毎授業時の質疑応答内容を総合して評価する。			
成 績 の 評 価 方 法	レポートの内容と毎授業時の質疑応答内容を総合して評価する。			

教科・領域専門バックグラウンド科目群

授 業 科 目 名	物理学特講		単位数	2 単位
担 当 教 員 名	福 田 善 之、内 山 哲 治、 西 山 正 吾	授業形態	複数（オムニバス）	
授 業 の 到 達 目 標 及 び テ ー マ	理科系の一般教養としてのニュートン力学・熱力学等の古典物理学と区別される現代物理学の全般を歴史を振り返りつつ学ぶ。19世紀末、黒体からの全波長領域における熱放射スペクトルの理論的解釈において、古典物理学の破綻が明らかになった。この問題解決のために導入された量子仮設を通して、現代物理学の基礎として重要な光学・量子力学・統計力学等を理解することを目的とする。			
授 業 の 概 要	光学分野：西山正吾，量子力学分野：福田善之，統計力学分野：内山哲治の各教員が担当する。			
授 業 計 画	1	電磁波としての光		
	2	偏光		
	3	反射と屈折		
	4	干渉		
	5	回折		
	6	粒子としての光		
	7	粒子性と波動性		
	8	シュレーディンガー方程式		
	9	原子・分子		
	10	原子核・素粒子		
	11	熱平衡		
	12	小正準分布とエントロピー		
	13	正準分布と自由エネルギー		
	14	古典統計力学と量子統計力学		
	15	相転移		
教科書・参考書等	原子物理学（紀本和男 著，講談社）等			
評 価 の 観 点	光学では光を電磁波として取り扱うことにより回折・散乱を理解できること、量子力学では粒子性・波動性を出発点としてシュレディンガー方程式により波動関数やエネルギー固有値を理解できること、更に統計力学では熱力学を出発点としてフェルミ分布やボーズ分布の概念の理解ができることを評価の観点とする。			
成 績 の 評 価 方 法	レポートをもとに評価する。			

教科・領域専門バックグラウンド科目群

授 業 科 目 名	化学特講		単位数	2 単位
担 当 教 員 名	池山 剛、 猿渡 英之、 笠井香代子	授業形態	複数 (オムニバス)	
授 業 の 到 達 目 標 及 び テ ー マ	初等・中等教育で取り扱う化学に関わる分野について、基礎となる知識や法則を習得する。			
授 業 の 概 要	初等・中等教育で取り扱う化学に関わる分野として、物理化学、分析化学、有機化学についての基礎的な事項や、現代の課題について学ぶ。理解を深めるために、簡単な実験も行う。			
授 業 計 画	1	分子とその集合		
	2	状態変化と平衡の理論(1)		
	3	状態変化と平衡の理論(2)		
	4	化学結合と分子の構造		
	5	分光学と分子スペクトル		
	6	分析化学で利用される化学平衡		
	7	古典的な化学分析法の原理と実際		
	8	機器分析法		
	9	簡単な分析化学実験		
	10	測定値の取り扱い方		
	11	有機化合物の特徴と構造		
	12	脂肪族化合物		
	13	芳香族化合物		
	14	天然有機化合物		
	15	有機化合物の機器分析法		
教科書・参考書等	特になし (必要に応じてプリントを配布する)			
評 価 の 観 点	講義で扱った化学に関する基本的な内容についての理解度を評価する。			
成 績 の 評 価 方 法	出席、講義の中で与える課題のレポートによる			

教科・領域専門バックグラウンド科目群

授 業 科 目 名	生物学特講		単位数	2 単位
担 当 教 員 名	棟 方 有 宗、 出 口 竜 作、 小 林 恭 士	授業形態	複数（オムニバス）	
授 業 の 到 達 目 標 及 び テ ー マ	生物学の各分野のうち，植物生理学，動物行動学，および動物発生学における基礎的な事象を取り上げ，概説する。学校現場において生物に関連する授業を展開する上で必要となる専門的知識を身につけてもらうことを目標とする。			
授 業 の 概 要	小学校から高等学校までの教科書に多く取り上げられている植物生理学，動物行動学，および動物発生学の各分野における基礎的内容について概説する。講義だけではなく，ディスカッションや簡単な観察・実験を随時取り入れ，理解を深めてもらう。			
授 業 計 画	1	ガイダンス（棟方，出口，小林）		
	2	植物生理学に関する講義①（小林）		
	3	植物生理学に関する講義②（小林）		
	4	植物生理学に関する講義③（小林）		
	5	植物生理学に関する講義④（小林）		
	6	動物行動学に関する講義①（棟方）		
	7	動物行動学に関する講義②（棟方）		
	8	動物行動学に関する講義③（棟方）		
	9	動物行動学に関する講義④（棟方）		
	10	動物発生学に関する講義①（出口）		
	11	動物発生学に関する講義②（出口）		
	12	動物発生学に関する講義③（出口）		
	13	動物発生学に関する講義④（出口）		
	14	動物発生学に関する講義⑤（出口）		
	15	まとめ（小林，棟方，出口）		
教科書・参考書等	特になし（必要に応じてプリントを配布する）			
評 価 の 観 点	学校現場において生物に関連する授業を展開する力量が身につけられたかどうかを評価する			
成 績 の 評 価 方 法	出席状況，受講態度，およびレポートの内容を総合的に判断して成績を評価する			

教科・領域専門バックグラウンド科目群

授 業 科 目 名	地学特講		単位数	2 単位
担 当 教 員 名	川 村 寿 郎, 高 田 淑 子, 菅 原	授業形態	複数 (オムニバス)	
授 業 の 到 達 目 標 及 び テ ー マ	初等・中等教育で学習する地学分野において、実践的内容を盛り込みながら新しい知見を修得する。			
授 業 の 概 要	岩石鉱物学・地質学・大気海洋気象学、惑星科学天文学・地球環境等の最新の情報について網羅して講義する。また、関係する解説文輪読や簡単な実験・調査を通して理解を深める。			
授 業 計 画	1	地球内部物質		
	2	地球内部構造		
	3	地質学		
	4	地質学		
	5	化石と堆積科学		
	6	地質学的地球環境論		
	7	大気海洋物理		
	8	大気海洋物理		
	9	大気海洋化学		
	10	地球大気海洋環境論		
	11	惑星科学		
	12	比較惑星科学		
	13	太陽系進化		
	14	新しい地球観		
	15	新しい宇宙観		
教科書・参考書等	岩波講座 地球惑星科学 等			
評 価 の 観 点	地学分野の実践的内容や最新の知識の理解度、および、実験・観察・調査などに対する意欲と達成度を総合的に評価する。			
成 績 の 評 価 方 法	出席・授業内容・レポートによる。			

教科・領域専門バックグラウンド科目群

授 業 科 目 名	理科教育特講		単位数	2単位
担 当 教 員 名	渡辺 尚	授業形態	単独	
授 業 の 到 達 目 標 及 び テ ー マ	理科教育研究の成果を学ぶ方法を修得し，理科教材研究の方法，理科授業研究の方法を具体的な事例に適応する。			
授 業 の 概 要	理科教育の成果を学ぶ方法を学習し，理科教材研究，理科授業研究の方法を検討する。			
授 業 計 画	1	科学教育と理科教育		
	2	教育課程と教材		
	3	合科，融合的教科と理科教材		
	4	他教科と理科的教材研究		
	5	簡易実験教材の開発と理科教育研究		
	6	教授法案，学習指導案と理科教材・授業		
	7	理科授業研究と授業記録		
	8	物質概念と教材・授業		
	9	理科教材最先端研究 1		
	10	理科教材最先端研究 2		
	11	理科教材最先端研究 3		
	12	理科教材最先端研究 4		
	13	郷土と理科教材・理科授業		
	14	作業理科とものづくり教材		
	15	理科教育研究と研究組織		
教科書・参考書等	その都度指示する。			
評 価 の 観 点	具体的な教材について，これまでの教材研究の成果をサーベイし，新しい教材・授業の参考にできるようにすること。			
成 績 の 評 価 方 法	講義での分担レポート，討論への参加度，学期末レポートで決める。			

教科・領域専門バックグラウンド科目群

授 業 科 目 名	声楽特講		単位数	2 単位
担 当 教 員 名	應 和 恵 子	授業形態	単独	
授 業 の 到 達 目 標 及 び テ ー マ	声楽に関するテーマについて研究し、声楽曲を実践することにより、声楽の研究・演奏方法についての知識や能力を深める。			
授 業 の 概 要	設定したテーマについて、文献・視聴覚資料などを使って研究し、声楽全体との関係を把握した上で、演奏様式、音楽的表現、歴史・地域・題材などの背景との関わりについて理解を深める。受講生の能力に応じて与えられた声楽曲を研究し、発声や歌唱表現を学ぶ。			
授 業 計 画	1	オリエンテーション・テーマ設定		
	2	テーマ① 発表 1		
	3	声楽実技及び演奏解釈		
	4	テーマ① 発表 2		
	5	声楽実技及び演奏解釈		
	6	テーマ② 発表 1		
	7	声楽実技及び演奏解釈		
	8	テーマ② 発表 2		
	9	声楽実技及び演奏解釈		
	10	テーマ③ 発表 1		
	11	声楽実技及び演奏解釈		
	12	テーマ③ 発表 2		
	13	声楽実技及び演奏解釈		
	14	声楽実技及び演奏解釈		
	15	実技試験・総括		
教科書・参考書等	随時指示する。			
評 価 の 観 点	出席30％・発表内容および理解度40％・実技試験30％で、総合的に判断する。			
成 績 の 評 価 方 法	出席、授業への取り組み、実技試験			

教科・領域専門バックグラウンド科目群

授 業 科 目 名	器楽特講		単位数	2 単位
担 当 教 員 名	倉 戸 テ ル	授業形態	単独	
授 業 の 到 達 目 標 及 び テ ー マ	器楽作品を通して、演奏とは何か、表現とは何かを探る。			
授 業 の 概 要	受講生個々の興味関心に応じてテーマを設定し、それぞれが発表を行いながら授業を進めていく。また、演奏技術の習得、演奏解釈なども行う。			
授 業 計 画	1	オリエンテーション		
	2	演奏技術の習得および演奏解釈		
	3	演奏技術の習得および演奏解釈		
	4	演奏技術の習得および演奏解釈		
	5	演奏技術の習得および演奏解釈		
	6	演奏技術の習得および演奏解釈		
	7	演奏技術の習得および演奏解釈		
	8	テーマに基づいた発表		
	9	テーマに基づいた発表		
	10	テーマに基づいた発表		
	11	テーマに基づいた発表		
	12	テーマに基づいた発表		
	13	テーマに基づいた発表		
	14	テーマに基づいた発表		
	15	まとめ		
教科書・参考書等	授業の中で指示します。			
評 価 の 観 点	演奏解釈や発表の内容、また基本的な演奏技術が習得できたかによって評価する。			
成 績 の 評 価 方 法	出席、授業態度、発表内容などから評価します。			

教科・領域専門バックグラウンド科目群

授 業 科 目 名	作曲特講		単位数	2 単位
担 当 教 員 名	吉 川 和 夫	授業形態	単独	
授 業 の 到 達 目 標 及 び テ ー マ	受講者自らが「作曲をする」経験を通して、学校教育の中での「作曲」の方法や、それに必要な技術を見極めること。作曲した作品を発表する形態の工夫についても、その可能性を考え、総合的な学習経験としての「作曲」の在り方を学ぶ。			
授 業 の 概 要	ひと言で「作曲」と言っても、さまざまなレベルやジャンル、方法がある。それらを総花的に学ぶのではなく、むしろ受講者の経験と思考に最も合った方法を考え、経験的に内容を構築する。実際に作曲を経験すること、そのために必要な技術を確保することを、授業の主軸とする。			
授 業 計 画	1	ガイダンス		
	2	先行作品等の分析、検討		
	3	作曲をするために必要な技術の確保(1)、実作の試み(1)		
	4	作曲をするために必要な技術の確保(2)、実作の試み(2)		
	5	作曲をするために必要な技術の確保(3)、実作の試み(3)		
	6	作曲をするために必要な技術の確保(4)、実作の試み(4)		
	7	作曲をするために必要な技術の確保(5)、実作の試み(5)		
	8	実作作品の検討と考察		
	9	作曲をするために必要な技術の確保(6)、実作の試み(6)		
	10	作曲をするために必要な技術の確保(7)、実作の試み(7)		
	11	作曲をするために必要な技術の確保(8)、実作の試み(8)		
	12	方法論の整理(1)、実作の試み(9)		
	13	方法論の整理(2)、実作の試み(10)		
	14	方法論の整理(3)、実作の試み(11)		
	15	成果発表・総括		
教科書・参考書等	ガイダンスののち、受講生に適したものをそのつど指示する。			
評 価 の 観 点	能動的に作曲に取り組むことが出来ているか。またそのために必要な知識、技術を習得しているか。			
成 績 の 評 価 方 法	各回の受講状況と成果発表を総合して評価する。			

教科・領域専門バックグラウンド科目群

授 業 科 目 名	指揮特講		単位数	2 単位
担 当 教 員 名	日比野 裕 幸	授業形態	単独	
授 業 の 到 達 目 標 及 び テ ー マ	アンサンブルや合奏をするにあたって、それらを音楽としてまとめ上げる楽曲分析と指揮の技術について体験研究する。			
授 業 の 概 要	音楽への深い理解と実践的演習を学び体験することで、指導的なスタンスを研究する。			
授 業 計 画	1	授業内容の説明と教材指定（スコア）		
	2	スコアに関する分析と指揮法についての実践①		
	3	スコアに関する分析と指揮法についての実践②		
	4	スコアに関する分析と指揮法についての実践③		
	5	スコアに関する分析と指揮法についての実践④		
	6	スコアに関する分析と指揮法についての実践⑤		
	7	スコアに関する分析と指揮法についての実践⑥		
	8	課題となる楽曲（未定）をピアノやオーケストラを使って実践的に作り上げていく。①		
	9	課題となる楽曲（未定）をピアノやオーケストラを使って実践的に作り上げていく。②		
	10	課題となる楽曲（未定）をピアノやオーケストラを使って実践的に作り上げていく。③		
	11	課題となる楽曲（未定）をピアノやオーケストラを使って実践的に作り上げていく。④		
	12	課題となる楽曲（未定）をピアノやオーケストラを使って実践的に作り上げていく。⑤		
	13	課題となる楽曲（未定）をピアノやオーケストラを使って実践的に作り上げていく。⑥		
	14	指定演奏会へのレポート提出		
	15	まとめ		
教科書・参考書等	授業の中で指示します。			
評 価 の 観 点	理解のみでなく、実践的に行う行動力も重視する。			
成 績 の 評 価 方 法	出席、授業での活発な参加度等で評価します。			

教科・領域専門バックグラウンド科目群

授 業 科 目 名	音楽学特講		単位数	2 単位
担 当 教 員 名	小 塩 さとみ	授業形態	単独	
授 業 の 到 達 目 標 及 び テ ー マ	人間の音楽活動に関して、音楽学という研究領域で行われてきた研究の方法とその研究成果を学び、自身の研究にいかにか活用することができるかを考える。			
授 業 の 概 要	音楽学の論文を講読しながら、それぞれの研究の手法を分析する形で授業を進める。講読論文は、履修生の研究テーマと関連の深いものを選定する。			
授 業 計 画	1	音楽学とは何か-研究対象、研究方法		
	2	音楽学文献の探索方法		
	3	論文1 講読 (その1)		
	4	論文1 講読 (その2)		
	5	論文1 の内容に基づく討論		
	6	論文2 講読 (その1)		
	7	論文2 講読 (その2)		
	8	論文2 の内容に基づく討論		
	9	論文3 講読 (その1)		
	10	論文3 講読 (その2)		
	11	論文3 の内容に基づく討論		
	12	論文4 講読 (その1)		
	13	論文4 講読 (その2)		
	14	論文4 の内容に基づく討論		
	15	まとめ		
教科書・参考書等	教科書は使用しない。参考書は授業開始時に指示する。			
評 価 の 観 点	論文の内容を理解したか、論文内容をわかりやすく伝えることができたかによって評価する			
成 績 の 評 価 方 法	授業への参加態度および学期末レポート			

教科・領域専門バックグラウンド科目群

授 業 科 目 名	音楽科教育特講		単位数	2 単位
担 当 教 員 名	小 畑 千 尋	授業形態	単独	
授 業 の 到 達 目 標 及 び テ ー マ	日本における学習指導要領の変遷を概観し、音楽科教育の目的と目標について考える。また、さまざまな授業実践を取り上げ、授業の組み立て方などについて学ぶ。			
授 業 の 概 要	日本の音楽教育の歴史を学習指導要領の変遷を通して研究する。学習指導要領が改定されたそれぞれの時代の特徴を捉え、日本の音楽科教育がどのようなことを目指してきたのかを考察する。また、国内外のさまざまな実践を学び、授業の組み立て方や、斬新な授業方法等についても研究する。			
授 業 計 画	1	世界の音楽教育の歴史		
	2	日本の音楽教育の歴史		
	3	学習指導要領改定の歴史Ⅰ		
	4	学習指導要領改定の歴史Ⅱ		
	5	音楽科における授業分析Ⅰ		
	6	音楽科における授業分析Ⅱ		
	7	音楽科の授業における指導案の役割		
	8	音楽科の授業における指導案の役割		
	9	ヨーロッパにおける音楽科教育		
	10	アメリカにおける音楽科教育		
	11	アジア諸国における音楽科教育Ⅰ		
	12	アジア諸国における音楽科教育Ⅱ		
	13	さまざまな音楽教育メソッドⅠ		
	14	さまざまな音楽教育メソッドⅡ		
	15	まとめ		
教科書・参考書等	授業の中で適宜紹介する。			
評 価 の 観 点	授業の中での発言やレポートなどを重視する。自分なりのオリジナルな意見を確立し、それをきちんと人前で述べることができるか、また明快に文章にすることができるかを評価の対象とする。			
成 績 の 評 価 方 法	出席、授業への取り組み、課題発表、課題レポート			

教科・領域専門バックグラウンド科目群

授 業 科 目 名	絵画特講		単位数	2 単位
担 当 教 員 名	安 彦 文 平	授業形態	単独	
授 業 の 到 達 目 標 及 び テ ー マ	<ul style="list-style-type: none"> ・平面表現における絵画技法等について歴史の変遷を踏まえながら検討、理解する。 ・現代絵画を取り巻く状況、諸問題について多面的に考察する。 			
授 業 の 概 要	近年、多様化してきた平面表現について、絵画技法等の歴史の変遷を分析しながら、現代の抱える絵画表現の諸問題について、理論的かつ実践的に考察する。			
授 業 計 画	1	ガイダンス「絵画領域について」		
	2	絵画表現の歴史（1）		
	3	絵画表現の歴史（2）		
	4	絵画表現の歴史（3）		
	5	絵画表現の歴史（4）		
	6	絵画表現の歴史（5）		
	7	絵画表現の歴史（6）		
	8	絵画の材料学		
	9	絵画の材料学		
	10	絵画技法（1）		
	11	絵画技法（2）		
	12	絵画技法（3）		
	13	絵画技法（4）		
	14	絵画技法（5）		
	15	絵画技法（6）		
教科書・参考書等	特になし			
評 価 の 観 点	絵画技法について歴史的考察をふまえてた上で理解できているか。 作品制作に対して積極的な取組がなされているか。			
成 績 の 評 価 方 法	出席、各回の理解度、作品、レポート等により総合評価			

教科・領域専門バックグラウンド科目群

授業科目名	デザイン・工芸特講		単位数	2単位
担当教員名	桂 雅彦・浅野 治志	授業形態	複数	
授業の到達目標及びテーマ	<p>日常の中に美があり、生活に潤いと快適さを導くことができるデザイン・工芸について学ぶ。用の美の大切さとどのようにすればそれが可能になるかをデザイン全般（建築を含めた空間デザイン、プロダクトデザイン、グラフィックデザインなど）について理解を深めるとともに、工芸の伝統工芸の中でも陶芸を中心に、その装飾技法、表現方法、歴史的背景などについて学習していく。</p>			
授業の概要	<p>参考テキスト、映像等の教材や実作品を使用し、できるだけ具体的に理解できるようにする。</p>			
授業計画	1	ガイダンス（桂・浅野）		
	2	デザインの考え方について（桂）		
	3	建築を含めた空間デザインについて（桂）		
	4	プロダクトデザインについて（桂）		
	5	グラフィックデザインについて（桂）		
	6	CGについて（桂）		
	7	映像・アニメーションについて（桂）		
	8	デザインについての総合的なまとめ（桂）		
	9	日本の陶芸1（浅野）		
	10	日本の陶芸2（浅野）		
	11	日本の陶芸3（浅野）		
	12	日本の陶芸4（浅野）		
	13	日本の陶芸5（浅野）		
	14	日本の陶芸6（浅野）		
	15	陶芸についてのまとめ（浅野）		
教科書・参考書等	随時配布			
評価の観点	デザインや工芸の専門分野における正しい理解を得て、制作を行う上での基礎的な知識や考え方を形成できたかを判断し、評価する。			
成績の評価方法	出席及び受講態度、レポートにより評価			

教科・領域専門バックグラウンド科目群

授 業 科 目 名	彫刻特講		単位数	2 単位
担 当 教 員 名	虎 尾 裕	授業形態	単独	
授 業 の 到 達 目 標 及 び テ ー マ	木彫および石彫の歴史的な変遷に焦点を当てた上で、近代から現代に至る具象彫刻と抽象彫刻を題材にして、制作行程を理解し、彫刻制作に必要な、様々な素材の加工法・性質を通じて、基礎的な表現方法を学び取り、多様化した立体表現に対応できる造形性を考察する。			
授 業 の 概 要	木彫および石彫の近代から現代に至る歴史上の名作に触れ、またそれらの制作行程を理解することで作家の意図するコンセプトを読み取り、現代の立体造形作品までの変遷を考察する。			
授 業 計 画	1	木彫の歴史 (1)		
	2	木彫の歴史 (2)		
	3	木彫の歴史 (3)		
	4	近代の木彫作品について (1)		
	5	現代の木彫作品について (2)		
	6	木彫の制作行程について (1)		
	7	木彫の制作行程について (2)		
	8	木彫の制作行程について (3)		
	9	木彫作品のまとめ		
	10	石彫の歴史		
	11	現代の石彫作品について		
	12	石彫の制作行程について (1)		
	13	石彫の制作行程について (2)		
	14	石彫作品のまとめ		
	15	現代の立体造形作品について		
教科書・参考書等	「彫刻近代史」ハーバードリード著			
評 価 の 観 点	彫刻及び立体作品の歴史的変遷とコンセプト等の理解度に応じて評価する。			
成 績 の 評 価 方 法	各回の理解度、作品、レポート等の総合評価			

教科・領域専門バックグラウンド科目群

授 業 科 目 名	美術史・美術理論特講		単位数	2 単位
担 当 教 員 名	新 田 秀 樹	授業形態	単独	
授 業 の 到 達 目 標 及 び テ ー マ	明治期における「美術」概念の生成、美術教育機関と美術制度の誕生、博物館の成立などを起点に、近代日本の文化状況における美術のあり方を西洋近代の美術制度と対比しながら現代までを視野に入れ、美術と社会の関わりについて批評的に捉える能力を養う。			
授 業 の 概 要	毎回、文献を読んでレジユメを作成する予習を課す。レジユメ発表と討論を中心に進めるので明確な問題意識と十分な準備が求められる。			
授 業 計 画	1	芸術展示の歴史（1）		
	2	芸術展示の歴史（2）		
	3	日本美術史の展示（1）		
	4	日本美術史の展示（2）		
	5	現代アートと展示（1）		
	6	現代アートと展示（2）		
	7	美術館と展示（1）		
	8	美術館と展示（2）		
	9	都市空間と展示（1）		
	10	都市空間と展示（2）		
	11	ファッションと展示		
	12	日本の伝統と展示（1）		
	13	日本の伝統と展示（2）		
	14	科学と芸術の間（1）		
	15	科学と芸術の間（2）		
教科書・参考書等	『芸術展示の現象学』太田喬夫・三木順子編（晃洋書房）ほか			
評 価 の 観 点				
成 績 の 評 価 方 法	レジユメ40%、発表30%、討論30%			

教科・領域専門バックグラウンド科目群

授 業 科 目 名	美術科教育特講		単位数	2 単位
担 当 教 員 名	村 上 タカシ	授業形態	単独	
授 業 の 到 達 目 標 及 び テ ー マ	<ul style="list-style-type: none"> 多様化する現代のアートを知り、s h境の中でのアート活動の可能性を考え、 リサーチによる情報収集能力を高める。 学校や地域等で行われているプロジェクト型の授業や参加型のアート活動など 多様な美術活動や美術教材を理解する。 学校や地域等で行える事業計画を立て、ディスカッションやプレゼンテーションなどを通してコミュニケーション能力を高める。 			
授 業 の 概 要	<p>アートとは何か？現代社会の中で何が起きているのか？時代によってアートや教育のあり方は変わる。初心者でもわかる現代美術の入門から始まり、アートと教育、社会との関係や公共性など多様な可能性をみんなで考えていく。能動的学修としてのリサーチやグループ・ディスカッション、アートワークショップなどを体験した上、新たなアートや学びの提案を企画構想としてまとめあげるとともに、社会的テーマと結びつける形で総まとめを行う。（一部集中で行う予定である）</p>			
授 業 計 画	1	ガイダンス		
	2	美術の歴史 1		
	3	美術の歴史 2		
	4	現代の美術入門 1：美術教育リサーチ		
	5	リサーチ・セルフプロデュースプレゼン		
	6	文化関連施設・地域等校外視察 1：フィールドワーク		
	7	文化関連施設・地域等校外視察 2：フィールドワーク		
	8	リフレクション（振り返り）、現代の美術入門 2		
	9	美術教育リサーチ、プロジェクト・ワークショップ等企画構想		
	10	美術・教材研究 1：ディスカッション		
	11	美術・教材研究 2：ディスカッション		
	12	造形ワークショップ体験 1		
	13	造形ワークショップ体験 2		
	14	リフレクション、記録編集		
	15	プレゼンテーション、まとめ		
教科書・参考書等	必要に応じて適宜指示する。			
成績の評価方法	<p>学習課題としての事前リサーチ中間プレゼン・演習課題及び最終プレゼンテーションなど総合的に評価する。評価基準は、事前リサーチ中間レポート30%、演習課題40%、最終課題レポートプレゼンテーション30%とする。欠席は1/3未満とする。</p>			

教科・領域専門バックグラウンド科目群

授 業 科 目 名	教育保健学特講		単位数	2 単位
担 当 教 員 名	黒 川 修 行	授業形態	単独	
授 業 の 到 達 目 標 及 び テ ー マ	子どもたちの身心の発育・発達問題や健康問題を教育の視点から捉えられ、教育の課題としての実践的取り組みのできる力量を養うことをねらいとする。			
授 業 の 概 要	上記のような力量をつけるため、世界のHealth Promoting Schoolの取り組みや日本におけるさまざまな子どもの健康形成に関するすぐれた実践を紹介しつつ、その中にある教育原則を提起し、深く考察させる。			
授 業 計 画	1	教育保健学とは何か		
	2	世界の子どもの健康課題とHealth Promoting Schoolの取り組みの紹介		
	3	戦後日本の子どもたちの健康問題の変遷とその背景		
	4	子どもの健康課題に対するMedical Approach と Educational Approach		
	5	今日の子どもの生命にかかわる問題状況と「いのちの教育」		
	6	今日の子どもの身体発達における二極化現象とその教育課題		
	7	子どもの心のストレス：①ストレスによる心身症の問題		
	8	子どもの心のストレス：②貧困と健康		
	9	子どもの心のストレス：③保健室・養護教諭との連携		
	10	病気や障害を抱えた子どもに対する発達・健康支援		
	11	魅力ある保健の指導をつくる：①保健の学力形成の仕事		
	12	魅力ある保健の指導をつくる：②すぐれた保健教材とは何か		
	13	魅力ある保健の指導をつくる：③考えさせる保健の授業展開		
	14	今日の思春期の子どもの性の課題と性の学力形成		
	15	子どもたちに「健康に生きる力」を育てる課題と展望		
教科書・参考書等	教師のための教育保健学 東山書房			
評 価 の 観 点	教育保険・学校保健に関する基礎的な事項、現状と課題を理解できたか。 また、課題に対して、自分なりの対応を考えることができたかで評価する。			
成 績 の 評 価 方 法	何本かのレポートと最終テストによる			

教科・領域専門バックグラウンド科目群

授 業 科 目 名	運動学特講		単位数	2 単位
担 当 教 員 名	前 田 順 一 ・ 池 田 晃 一 ・ 木 下 英 俊	授業形態	複数	
授 業 の 到 達 目 標 及 び テ ー マ	運動学分野の中でも特に運動生理学・バイオメカニクス・スポーツ運動学の領域に関する基礎的教養を身につけ、最新の知見についても学習する。			
授 業 の 概 要	運動生理学領域においては適応の概念を中心に生体の運動に対する反応及び適応について、バイオメカニクス領域においては身体運動の基本的動作のメカニズムについて、スポーツ運動学領域においてはマイネルや金子らが構築したスポーツ運動学の理論に基づいてスポーツ運動の学習や指導に関する諸問題について、実践的に検討する。			
授 業 計 画	1	基本的生命現象と身体運動・トレーニング（前田）		
	2	運動に対する急性応答（前田）		
	3	運動に対する慢性応答（前田）		
	4	運動処方基礎と応用（前田）		
	5	健康に関連した体力と体力テスト（前田）		
	6	スポーツバイオメカニクスの基礎（1）スポーツバイオメカニクスとは（池田）		
	7	スポーツバイオメカニクスの基礎（2）運動と力学（池田）		
	8	身体運動の基本動作のメカニズム（歩く 走る等）（池田）		
	9	身体運動の基本動作のメカニズム（遠くへ跳ぶ 高く跳ぶ等）（池田）		
	10	身体運動の基本動作のメカニズム（投げる 蹴る等）（池田）		
	11	スポーツ運動学の目的と研究領域（木下）		
	12	スポーツ運動の観察（木下）		
	13	スポーツ運動の質（木下）		
	14	スポーツ運動の技術（木下）		
	15	スポーツ運動の学習（木下）		
教科書・参考書等				
評 価 の 観 点	身体運動に対する基礎的な適応の機序、身体運動の基本動作のメカニズム及びスポーツ運動学の基礎理論について理解しているかを評価する。			
成 績 の 評 価 方 法	出席とレポートにより評価する。			

教科・領域専門バックグラウンド科目群

授 業 科 目 名	体育学特講		単位数	2 単位
担 当 教 員 名	里 見 まり子	授業形態	単独	
授 業 の 到 達 目 標 及 び テ ー マ	身体表現の教育についてさまざまな視点から検討し、その内容や指導法について理解を深める。			
授 業 の 概 要	これまでの表現教育の実践例を検討しながら、身体表現の教育について考察する			
授 業 計 画	1	表現の教育について（１）		
	2	表現の教育について・実践例の検討（２）		
	3	身体表現の教育について（１）		
	4	身体表現の教育について・実践例の検討（２）		
	5	からだと表現について（１）		
	6	からだと表現について・実践例の検討（２）		
	7	動きと表現について（１）		
	8	動きと表現について・実践例の検討（２）		
	9	イメージと身体表現について（１）		
	10	イメージと身体表現について・実践例の検討（２）		
	11	身体感覚と表現について（１）		
	12	身体感覚と表現について・実践例の検討（２）		
	13	即興と身体表現について（１）		
	14	即興と身体表現について・実践例の検討（２）		
	15	まとめ		
教科書・参考書等	” Improvisation Tanz Bewegunu” von Barbara Haselbach (Klett)			
評 価 の 観 点	身体表現の教育の内容や指導法について十分に理解できているかどうかを評価する。			
成 績 の 評 価 方 法	出席状況とレポートの内容によって評価する			

教科・領域専門バックグラウンド科目群

授 業 科 目 名	保健体育科教育特講		単位数	2 単位
担 当 教 員 名	黒 川 哲 也・神 谷 拓	授業形態	複数	
授 業 の 到 達 目 標 及 び テ ー マ	・保健体育科のカリキュラム研究または授業研究をおこなう。			
授 業 の 概 要	保健体育科教育におけるすぐれた実践記録をもとに目標・内容づくり・教材づくり・学習指導を検討し、カリキュラムづくりと授業づくりの基本的事項を考察する。			
授 業 計 画	1	オリエンテーション（研究テーマと授業のテーマの接点を求める）		
	2	保健体育科教育の現状と課題		
	3	学習指導要領の変遷		
	4	保健体育科の重点課題		
	5	カリキュラム概念の検討		
	6	カリキュラム研究の目的と方法		
	7	単元学習概念の検討		
	8	授業研究の目的と方法		
	9	実践記録の批評①		
	10	実践記録の批評②		
	11	教材概念の検討		
	12	教材研究の目的と方法		
	13	カリキュラム研究・授業研究・教材研究のテーマづくり		
	14	研究成果の発表		
	15	研究成果の報告書作成		
教科書・参考書等				
評 価 の 観 点	保健体育科のカリキュラムづくり・授業づくりの基本的事項を理解するとともに、保健体育科の現状と課題を踏まえた研究テーマを追求することができたか。			
成 績 の 評 価 方 法	研究成果の報告書と発表の完成度で評価する			

教科・領域専門バックグラウンド科目群

授 業 科 目 名	電気特講		単位数	2 単位
担 当 教 員 名	水谷 好成	授業形態	単独	
授 業 の 到 達 目 標 及 び テ ー マ	<p>小学校の理科や図画工作で扱われている電気に関する基礎的な学習内容を理解し、中学校の理科や技術で扱われる電気の内容がどのように関係しているかを学ぶ。さらに、受講者の担当学校種に応じた具体的な学習テーマを設定し、電気に関する簡単な教材や教具の設計および製作ができるようになる。</p>			
授 業 の 概 要	<p>小学校の理科で扱われている電気の学習内容を正しく理解したうえで説明することは簡単ではない。電池や抵抗の接続という基礎から整理し、LED、光電池、コンデンサなど基礎的な電気・電子部品の扱い方について実習を組み合わせながら学習する。さらに、受講者の担当学校種に応じて具体的な学習テーマを設定し、簡単な電気教材の製作を行う。希望があれば、コンピュータを使った制御についても扱う。</p>			
授 業 計 画	1	小学校理科から始める電気の基礎<イントロダクション>		
	2	小学校理科で学ぶ電気（1）<4年生を中心に>		
	3	小学校理科で学ぶ電気（1）<5年生を中心に>		
	4	小学校理科で学ぶ電気（1）<6年生を中心に>		
	5	小学校図画工作科で扱う電気（1）		
	6	小学校図画工作科で扱う電気（2）		
	7	中学校理科で学ぶ電気（1）		
	8	中学校理科で学ぶ電気（2）		
	9	理科と技術で学ぶ電気の類似性と相異点（1）		
	10	理科と技術で学ぶ電気の類似性と相異点（2）		
	11	理科と技術で学ぶ電気の類似性と相異点（3）		
	12	技術と理科を連動させた教材の可能性（1）		
	13	技術と理科を連動させた教材の可能性（2）		
	14	技術と理科を連動させた教材の可能性（3）		
	15	小学校から中学校まで段階的に学ぶ電気（まとめ）		
教科書・参考書等	講義中に適宜資料を配付する。（授業計画は受講者の希望に応じて変更可能である）			
評 価 の 観 点	電気・電子工作をするうえでの基礎知識を習得し、小学校あるいは中学校の授業で活用する方法を提案することができる。また、電子・電気工作を安全に作業することができる。			
成 績 の 評 価 方 法	講義中の小レポート、及び、最終提出課題（作品）及びレポート			

教科・領域専門バックグラウンド科目群

授 業 科 目 名	機械特講		単位数	2 単位
担 当 教 員 名	門田 和雄	授業形態	単独	
授 業 の 到 達 目 標 及 び テ ー マ	機械工学に関する技術教育の指導法の実際について学ぶ。			
授 業 の 概 要	機械工学に関する技術教育について、機械設計、機械製図、機械工作に関する事項について、講義及び実習を中心として学ぶ。			
授 業 計 画	1	機械工学の概要		
	2	機械設計（1） 機械要素 歯車、ねじ、軸・軸受・軸継手、ばねなど		
	3	機械設計（2） リンク機構、カム機構など		
	4	機械設計（3） 材料の強さ、引張・曲げなど		
	5	機械製図（1） 機械製図の規則		
	6	機械製図（2） 2次元製図の演習		
	7	機械製図（3） 3次元製図の演習 基本図形		
	8	機械製図（4） 3次元製図の演習 機構解析		
	9	機械工作（1） 手仕上げ		
	10	機械工作（2） 塑性加工		
	11	機械工作（3） 切削加工		
	12	機械工作（4） 溶接		
	13	模擬授業 講義の授業		
	14	模擬授業 実習の授業		
	15	まとめ		
教科書・参考書等	教科書 基礎から学ぶ機械設計、基礎から学ぶ機械工作（サイエンス・アイ新書）、門田和雄			
評 価 の 観 点	機械工学に関する知識や技能を実際に教える側に立って指導ができるようになることを重視する。			
成 績 の 評 価 方 法	授業内での演習、実習、最終試験などを総合的に判断する。			

教科・領域専門バックグラウンド科目群

授 業 科 目 名	木材加工特講		単位数	2 単位
担 当 教 員 名	未 定		授業形態	単独
授 業 の 到 達 目 標 及 び テ ー マ	木材の構造と性質の関係が理解できる。木材の組織観察や特性試験の方法を身につける。木材の伝統的加工法および新しい加工方法について実践力と指導力を身につける。			
授 業 の 概 要	木材の構造と性質の関係を実測データや資料から理解する。木材の組織観察や強度実験の方法を身につけるとともに木材の伝統的加工法により小作品を製作する。また、最近の新しい加工方法について具体例をもとにその原理と加工技術に関する知識を深める。			
授 業 計 画	1	木材の高次構造について		
	2	木材組織の観察試料の作製法		
	3	木材組織の観察試料の作製と観察		
	4	木材細胞壁の微細構造		
	5	木材の組織構造と諸性質（1）		
	6	木材の組織構造と諸性質（2）		
	7	木材加工用道具の構造と特徴（1）		
	8	木材加工用道具の構造と特徴（2）		
	9	木工道具および工作機械の操作法（1）		
	10	木工道具および工作機械の操作法（2）		
	11	木工道具および工作機械の操作法（3）		
	12	新しい加工法（1）耐腐朽化木材		
	13	新しい加工法（2）難燃化木材		
	14	新しい加工法（3）寸法安定化木材		
	15	まとめ、試験		
教科書・参考書等	授業で紹介する			
評 価 の 観 点				
成 績 の 評 価 方 法	平常点、レポートおよび試験の成績で評価する			

教科・領域専門バックグラウンド科目群

授 業 科 目 名	栽培特講		単位数	2 単位
担 当 教 員 名	岡 正 明	授業形態	単独	
授 業 の 到 達 目 標 及 び テ ー マ	小中学校で行われる植物栽培に関する授業（生活、理科、技術・家庭科、総合的学習の時間など）において、失敗することなく植物教材を栽培することができる知識と技術を修得することを目標とする。また、授業の時間数や季節・学習目的に合わせ適する植物教材を選択する力、植物に対する生徒のより深い興味を引き出す力も養成する。			
授 業 の 概 要	栽培学習を進める際、教師自身が知っておくべき基本的知識に関する講義に続き、小中学校で用いられる代表的な植物教材の栽培技術・活用法について体験的に学ぶ。また、栽培した植物を用いた生理活性計測・収穫物加工・バイオテクノロジーなど、教育現場で実践できる簡単な実験も紹介する。			
授 業 計 画	1	授業時間や季節・学習目的に適合した植物教材の選択		
	2	栽培技術の基本：光・水・温度と植物生育		
	3	栽培技術の基本：土・肥料と植物生育、学校で作る堆肥		
	4	教材としてのアサガオ（目的別の品種選び・栽培法・仕立て方）		
	5	多様なヒマワリ品種の教材化		
	6	ジャガイモとサツマイモを用いた学習プログラム		
	7	ヘチマとカボチャを用いた多角的な形態観察		
	8	開花・収穫期の推定と制御（例：エダマメを夏休み前・後に収穫する手法）		
	9	バケツ稲、ペットボトル稲の管理技術、水田イネとの比較		
	10	植物生理実験のポイント：光合成・蒸散速度の計測、気孔開閉の観測		
	11	収穫物を用いた工作（2）：植物繊維の紙すき		
	12	植物バイオテクノロジー：理科室で行う植物組織培養		
	13	植物バイオテクノロジー：理科室で行うDNA実験		
	14	地球環境問題と食料生産		
	15	学校菜園で実践できる地球にやさしい栽培技術		
教科書・参考書等	授業中に、随時、紹介する。			
評 価 の 観 点	授業時数や学習目的に合わせた植物教材を選択することができ、また各栽培現場で実施可能な栽培計画を立てることができるようになったかを判断し、評価を行う			
成 績 の 評 価 方 法	授業後に提出するレポートと出席状況により、総合的に判断する。			

教科・領域専門バックグラウンド科目群

授 業 科 目 名	食物学特講		単位数	2 単位
担 当 教 員 名	鎌 田 慶 朗	授業形態	単独	
授 業 の 到 達 目 標 及 び テ ー マ	食物に関して学校現場で取り上げられることの多い内容、問題となる可能性のある内容については、今日、通常の教育を受けただけでは理解がむづかしい先端的な知識を必要とすることがある。そこで、これを理解する上で基礎となる知識を講義する。			
授 業 の 概 要	教育の現場で取り上げられることの多い大豆食品について、その化学的な基礎と、様々な応用の態様を学ぶ。一方、学校の現場で遭遇する食品学的な問題の例として、食物アレルギーや様々な食中毒について学ぶ。			
授 業 計 画	1	大豆食品の歴史		
	2	大豆の化学		
	3	大豆の栄養・機能学		
	4	大豆食品		
	5	大豆の発酵食品		
	6	大豆の加工学		
	7	食品アレルギー研究の最近の成果		
	8	〃		
	9	食品アレルギー性の評価		
	10	〃		
	11	低アレルギー性食品		
	12	〃		
	13	学校で問題となる食中毒		
	14	0157、ノロウイルス、黄色ブドウ球菌など		
	15	〃		
教科書・参考書等	「大豆の科学」朝倉書店、「食品アレルギー対策ハンドブック」サイエンスフォーラム			
評 価 の 観 点	取り上げた内容の基礎的な背景を理解できたか			
成 績 の 評 価 方 法	平常点、テーマごとのプレゼンテーションの評価			

教科・領域専門バックグラウンド科目群

授 業 科 目 名	被服学特講		単位数	2 単位
担 当 教 員 名	西 川 重 和	授業形態	単独	
授 業 の 到 達 目 標 及 び テ ー マ	衣服をつくるためのものづくりについて、各過程（繊維→糸→布→縫製→衣服）ごとにおけるものづくりに必要な原理、正しい操作方法について理解することができる。			
授 業 の 概 要	繊維素材から最終製品である衣服までのものづくりについて解説する。特に、ものづくりを行うための必要な原理、操作方法について、各過程ごとに学習する。			
授 業 計 画	1	繊維素材（天然繊維）の特徴		
	2	繊維素材（化学繊維）の特徴と製造方法		
	3	繊維素材（新合繊）の特徴と製造方法		
	4	糸の製造方法、糸構造と機能の関係（紡績糸）		
	5	糸の製造方法、糸構造と機能の関係（フィラメント糸）		
	6	布の製造方法（織物）		
	7	布構造と機能の関係（織物）		
	8	布の製造方法（編物）		
	9	布構造と機能の関係（編物）		
	10	布の製造方法、布構造と機能の関係（不織布）		
	11	糸および布材料の力学特性（引っ張り、せん断特性）		
	12	糸および布材料の力学特性（振り、曲げ特性）		
	13	手縫いとミシン縫いの種類、縫い糸構造と機能の関係		
	14	人体計測と衣服の関係 1（衣服設計：上衣）		
	15	人体計測と衣服の関係 2（衣服設計：下衣）		
教科書・参考書等	衣服材料の科学（島崎恒蔵、建帛社）			
評 価 の 観 点	ものづくりに必要な各工程での原理を理解できたかについて、評価の判定を行う。			
成 績 の 評 価 方 法	出席（50%）と各回ごとのレポート（50%）で評価する。（出席率2/3以上が評価対象）			

教科・領域専門バックグラウンド科目群

授業科目名	住居学特講		単位数	2単位
担当教員名	菅原正則	授業形態	単独	
授業の到達目標及びテーマ	住居の成り立ちや役割について、生活、社会、環境、技術などの観点から学習する。また、住居に関する問題意識に基づいて課題設定し、調査や討論を通じて理解を深める。			
授業の概要	住居の成り立ちや役割に関して基礎的内容を講義し、それらから明確になった問題意識を課題とした研究・調査を行う。			
授業計画	1	住居とは何か		
	2	住居の変遷と住意識		
	3	世界の気候風土と住居		
	4	日本の気候風土と住居		
	5	集合住宅と団地生活		
	6	農村住宅と農村生活		
	7	生活様式と住居		
	8	家族周期と住居		
	9	住居の選択と住情報		
	10	住居の維持・管理		
	11	課題研究1：課題の検討		
	12	課題研究2：研究・調査方法の計画		
	13	課題研究3：研究・調査の実施		
	14	課題研究4：研究・調査結果の取りまとめ		
	15	課題研究5：講評		
教科書・参考書等	未定			
評価の観点	講義およびそれから明確になった問題意識を課題とした研究・調査を通じて、住居の成り立ちや役割に関する基礎的内容の理解が達成されたことを、その程度に応じて評価する。			
成績の評価方法	授業への参加態度、課題研究の内容により評価する。			

教科・領域専門バックグラウンド科目群

授 業 科 目 名	保育学特講		単位数	2 単位
担 当 教 員 名	香曾我部 琢	授業形態	単独	
授 業 の 到 達 目 標 及 び テ ー マ	近年、社会は急速に変化し、子どもの生活環境は大きく変化している。子どもや家族をとりまく現代社会の変化の特徴を説明できる。			
授 業 の 概 要	多様化、グローバル化が進む現代社会において、幼稚園、保育園における保育実践の質をより高いものにするには、保育者にとって重要な関心事であり、そのために自ら専門性を高めていく必要がある。本科目では、保育の質と保育者の専門性に焦点をあて、その実相について明らかにすることを目的としている。			
授 業 計 画	1	子どもとはどのような存在か		
	2	現代社会と子どもの生活		
	3	子どもの生活環境の変化 — 急速な社会の変化		
	4	子どもの生活環境の変化 — 少子化の進展		
	5	子どもの成長や発達をめぐる問題 — 子どもの生活習慣		
	6	子どもの成長や発達をめぐる問題 — 子どものからだと心の変化		
	7	子どもの成長や発達をめぐる問題 — 高学歴社会の子どもたち		
	8	子どもの成長や発達をめぐる問題 — 心と行動へのケアが必要な子どもたち		
	9	子育てをめぐる問題 — 子育てに悩む親		
	10	子育てをめぐる問題 — 就労と子育ての両立の困難		
	11	子育てをめぐる問題 — ひとり親の問題		
	12	子育てをめぐる問題 — 児童虐待の増加、顕在化		
	13	子どもの権利・大人の権利		
	14	社会的養護の現状と課題		
	15	子どもの福祉を考える		
教科書・参考書等	参考書「児童福祉を学ぶ—子どもと家庭に対する支援」堀口美智子ほか著、2009年 なみ書房			
評 価 の 観 点	授業のねらいが達成されたかどうかを判断し評価する。			
成 績 の 評 価 方 法	出席とディスカッションへの参加（60%）、授業内の小レポートと課題（40%）			

教科・領域専門バックグラウンド科目群

授業科目名	情報特講		単位数	2単位
担当教員名	鵜川 義弘	授業形態	単独	
授業の到達目標及びテーマ	学校での教育のために必要な情報の理解、情報ネットワークの利用、インターネットの現状、ICT利活用、情報セキュリティーの理解、ネットワーク管理、情報教育、情報モラル教育の方法について学ぶ			
授業の概要	以下の授業計画にのっとり演習を伴いながら学ぶ			
授業計画	1	▼初回		
	2	メール、パソコンの設定、の振り返り		
	3	授業計画の確認、仲間探し		
	4	▼情報モラル教育、情報リテラシー教育		
	5	情報の信頼性、ネット、新聞、雑誌の読み方、検索サイトの利用方法		
	6	子供の携帯電話、プロフ、ブログ、SNSの危険性、学校裏サイト、電子掲示板、掲示板事故、IPアドレスの調査、ブログの利用、ホームページの利用、交流サイトの利用		
	7	▼情報セキュリティー		
	8	WindowsUpdateとウイルス対策		
	9	子供の成績、プライバシーを流出させないためにネットワークセキュリティー、盗聴、なりすまし、改竄		
	10	▼ICTの利活用		
	11	パソコンの効率的使い方、情報の活用、不明カタカナ用語の解説		
	12	サーバ上のファイル共有		
	13	目からウロコのネット検索、USBメモリのデータ復旧法		
	14	学校における大量自動アンケート方法3種、SQS、Word、インターネットアンケート		
	15	クラウド、メールリスト、スケジュールを携帯で		
15	大型テレビ、電子黒板の使い方			
15	交流学习に使用する無料テレビ電話システム			
教科書・参考書等	ホームページで公開			
評価の観点	学校での教育のために必要な情報関連について理解ならびに技術の習得の程度に応じて評価する。			
成績の評価方法	出席、レポート、制作物			

教科・領域専門バックグラウンド科目群

授 業 科 目 名	生活系教育特講a		単位数	2 単位
担 当 教 員 名	安孫子 啓 ・ 安 藤 明 伸	授業形態	単独	
授 業 の 到 達 目 標 及 び テ ー マ	技術教育の理念や社会的役割、普通教育としての技術教育の歴史、科学技術社会における技術教育について学習を深める。特に現在実施されている中学校技術・家庭科の技術科教育に焦点を当て、授業づくりを通して教員としての実践的指導力を育むことを目標とする。			
授 業 の 概 要	中学校技術・家庭科の技術科教育に焦点を当て、授業づくりを通して教員としての実践的指導力を育むことを目標とする。			
授 業 計 画	1	技術教育と技術科教育（安孫子）		
	2	普通教育としての技術科教育（安藤）		
	3	技術科教育における授業のありかた（安藤）		
	4	技術とものづくりに関した授業案づくり 1（安孫子）		
	5	技術とものづくりに関した授業案づくり 2（安孫子）		
	6	授業実践（安孫子）		
	7	授業実践に対する批評と省察（安孫子）		
	8	授業の改善再構築 1（安孫子）		
	9	授業の改善再構築 2（安孫子）		
	10	ICT活用型の授業案づくり 1（安藤）		
	11	ICT活用型の授業案づくり 2（安藤）		
	12	授業実践（安藤）		
	13	授業実践に対する定量的な分析（安藤）		
	14	授業の改善再構築 1（安藤）		
	15	授業の改善再構築 2（安藤）		
教科書・参考書等	文部科学省 中学校学習指導要領（平成20年9月）解説－技術・家庭科－			
評 価 の 観 点	システム的な授業作りの方法が理解され、それに基づいた授業案を立て、その程度に応じて評価する。授業実践を行った場合は、授業計画の意図がどの程度反映できているかを判断し評価する。			
成 績 の 評 価 方 法	授業案、授業実践と何回かのレポートを総合的に評価する。			

教科・領域専門バックグラウンド科目群

授 業 科 目 名	生活系教育特講b		単位数	2 単位
担 当 教 員 名	小野寺 泰子	授業形態	単独	
授 業 の 到 達 目 標 及 び テ ー マ	実際の家庭科の授業を観察・記録する。それをもとに分析・検討する。それを通して授業改善の提案を具体的にを行うことができるようにする。			
授 業 の 概 要	すでにVTR記録した家庭科の授業分析を通して、授業分析の方法を学ぶ。その後、受講生各自が自らの視点を定めて授業分析が出来るようにする。その後、実際の授業を観察し、記録し、その授業について改善点を提案し、まとめる。			
授 業 計 画	1	ビデオ記録にした実際の家庭科授業を検討分析する(1)		
	2	ビデオ記録にした実際の家庭科授業を検討分析する(2)		
	3	受講者自ら授業分析の視点を定める。		
	4	検討分析した授業以外の受講者が関心のある分野の授業記録を選んで文字記録化する(1)		
	5	検討分析した授業以外の受講者が関心のある分野の授業記録を選んで文字記録化する(2)		
	6	検討分析した授業以外の受講者が関心のある分野の授業記録を選んで文字記録化する(3)		
	7	検討分析した授業以外の受講者が関心のある分野の授業記録を選んで文字記録化する(4)		
	8	検討分析した授業以外の受講者が関心のある分野の授業記録を選んで文字記録化する(5)		
	9	文字記録した授業記録を再検討し、授業分析の視点でまとめる		
	10	実際の授業を観察し、記録し課題を整理して授業改善の提案を具体的におこなう(1)		
	11	実際の授業を観察し、記録し課題を整理して授業改善の提案を具体的におこなう(2)		
	12	実際の授業を観察し、記録し課題を整理して授業改善の提案を具体的におこなう(3)		
	13	実際の授業を観察し、記録し課題を整理して授業改善の提案を具体的におこなう(4)		
	14	実際の授業を観察し、記録し課題を整理して授業改善の提案を具体的におこなう(5)		
	15	講義のまとめをする		
教科書・参考書等	21世紀の授業 『授業分析の基礎技術』 二杉孝司・藤川大祐・土原晴夫 編著、小学館出版(株) 『新しい調理実習の試み 1人・1品・3まわり』 中屋紀子・他 著、教育図書(株)			
評 価 の 観 点	・家庭科の授業を観察・記録し、授業分析の視点を決めて検討することができたか。 ・授業分析・検討を通して、児童生徒のよりよい学びのための具体的な授業改善案を提案できたか。以上の点について、レポート等の内容に応じて評価する。			
成 績 の 評 価 方 法	講義の際に提出するレポートおよび最終レポートによる			

教科・領域専門バックグラウンド科目群

授 業 科 目 名	英語学特講		単位数	2 単位
担 当 教 員 名	西 原 哲 雄	授業形態	単独	
授 業 の 到 達 目 標 及 び テ ー マ	音声学においては、教師として正しい発音を身につけ、生徒に標準発音を提示できることを目指す。統語論・構文論に関しては誤りやすい文法・語法に注意しつつ、日本人生徒・学生が従来型学校文法というより、実際に使われている英語表現の習得を目指すと共に、意味論、語用論関係では、日本語文化と英語文化の違いについても触れる。			
授 業 の 概 要	音声学・音韻学に関する分野の担当は西原哲雄。統語論、意味論、語用論に関する分野の担当は高橋潔。講義及び演習形式の併用とする。			
授 業 計 画	1	英語音声学入門		
	2	英語発音辞典の概説 I		
	3	英語発音辞典の概説 II		
	4	英語音声学と教育に関するテキストの講読		
	5	英語音声学と教育に関するテキストの講読		
	6	英語のイントネーション I		
	7	英語のイントネーション II		
	8	英語の基本文型 I		
	9	英語の基本文型 II		
	10	日英対照言語類型論と英文解釈・英作文 I		
	11	日英対照言語類型論と英文解釈・英作文 II		
	12	英語の有標構文		
	13	英語らしさと日本語らしさ I		
	14	英語らしさと日本語らしさ II		
	15	英語文化と日本語文化		
教科書・参考書等	未定（プリント配布予定）			
評 価 の 観 点	生徒に標準発音を提示することができるようになったかを判断し評価する。また、日本人英語学習者が気づきにくい英文法・語法の理解が達成されたことを、その程度に応じて評価する。			
成 績 の 評 価 方 法	出席及び随時行うレポートや期末試験による。			

教科・領域専門バックグラウンド科目群

授 業 科 目 名	英米文学特講		単位数	2 単位
担 当 教 員 名	竹 森 徹 士	授業形態	単独	
授 業 の 到 達 目 標 及 び テ ー マ	英米文学における主要な作品を取り上げ、英語読解力を養いつつ、作品および作品を取り巻く文化に対する理解を深める。			
授 業 の 概 要	毎回定められた範囲からトピックを拾いながら、作品の分析を行う。			
授 業 計 画	1	イントロダクション		
	2	Chap. I～III		
	3	Chap. IV～VI		
	4	Chap. VII～IX		
	5	Chap. X～XII		
	6	Chap. XIII～XV		
	7	Chap. XVI～XVIII		
	8	Chap. XIX～XXI		
	9	Chap. XXII～XXIV		
	10	Chap. XXV～XXVII		
	11	Contexts, Reviews and Reactions 1		
	12	Contexts, Reviews and Reactions 2		
	13	Criticism 1		
	14	Criticism 2		
	15	まとめ		
教科書・参考書等	Bram Stoker, Dracula (A Norton Critical Edition)、その他			
評 価 の 観 点				
成 績 の 評 価 方 法	出席状況、およびレポート（試験）により総合的に評価する。			

教科・領域専門バックグラウンド科目群

授 業 科 目 名	英語科教育特講		単位数	2 単位
担 当 教 員 名	鈴木 渉	授業形態	単独	
授 業 の 到 達 目 標 及 び テ ー マ	<p>現在、日本での英語教育に関する諸問題をいくつかの観点から概観すると同時に、その問題解決の何らかの糸口を見いだすことを目標とする。議論の観点としては、1) 外国語教育の教授法を日本に限定することなく、広く諸外国での実践等を参考にしながら解説する。2) 外国語教育の理論的基盤としての第2言語習得理論・認知心理学の理論的概念を解説する。3) 授業実践の改善のための英語習得に関するいくつかの実証的研究を解説する。4) 実証的研究の結果と理論的枠組みに基づいて、英語科授業の実践的改善の可能性を検討する。</p>			
授 業 の 概 要	<p>英語科授業の実践的改善の議論において「実践と理論の融合」が重要である。実践面として、小・中・高校での英語教育の具体的な教授法を議論する背景知識として、教授法・カリキュラム等の観点から講義する。理論面として、第2言語習得理論のいくつかを概観し、それに関連する実証的研究を講義する。最後に、現在の学習指導要領の下で、どのような授業改善が可能かどうかを受講生と教員がともに議論・検討する。</p>			
授 業 計 画	1	学習指導要領の概観（1）		
	2	学習指導要領の概観（2）		
	3	外国語教授法（1）		
	4	外国語教授法（2）		
	5	第2言語習得理論の解説（1）		
	6	第2言語習得理論の解説（2）		
	7	第2言語習得理論の解説（3）		
	8	英語習得に関する実証的研究（1）		
	9	英語習得に関する実証的研究（2）		
	10	英語習得に関する実証的研究（3）		
	11	英語習得に関する実証的研究（4）		
	12	授業実践の分析会（1）		
	13	授業実践の分析会（2）		
	14	授業実践の分析会（3）		
	15	授業実践の分析会（4）		
教科書・参考書等	必要な資料は配付する。また、必要に応じてテキストを指定する。			
評 価 の 観 点	英語教育を「学ぶ」側の立場からとらえることができるようになったかを判断し評価する。			
成 績 の 評 価 方 法	教授法、第2言語習得理論の講義に関してはレポートによる評価。授業実践のに関しては指導案・模擬授業などに基づいて評価する。			

教科・領域専門バックグラウンド科目群

授 業 科 目 名	小学校英語活動特講		単位数	2 単位
担 当 教 員 名	リース エイドリアン	授業形態	単独	
授 業 の 到 達 目 標 及 び テ ー マ	クラスルーム・イングリッシュ、アクティビティーの紹介、及び模擬授業を通して小学校英語活動の理解を深め、実践力をつける。			
授 業 の 概 要	主に模擬授業や検討会を重視し、小学校英語活動の課題とその解決策を探る。(授業は日本語で行う。)			
授 業 計 画	1	クラスルーム・イングリッシュ 1		
	2	クラスルーム・イングリッシュ 2		
	3	アクティビティー紹介 1		
	4	アクティビティー紹介 2		
	5	受講生の模擬授業と検討会 1		
	6	受講生の模擬授業と検討会 2		
	7	受講生の模擬授業と検討会 3		
	8	受講生の模擬授業と検討会 4		
	9	受講生の模擬授業と検討会 5		
	10	受講生の模擬授業と検討会 6		
	11	受講生の模擬授業と検討会 7		
	12	受講生の模擬授業と検討会 8		
	13	受講生の模擬授業と検討会 9		
	14	受講生の模擬授業と検討会 10		
	15	まとめ		
教科書・参考書等	必要な資料は配付する。			
評 価 の 観 点	模擬授業実践、ディスカッション参加			
成 績 の 評 価 方 法	模擬授業と検討会での貢献に基づいて評価する。			

実践的指導

授業科目名	実践適応と評価・分析論A				
教員免許状取得のための	必修科目	授業形態		単位数	2単位
担当教員名	専任教員全員				
授業の到達目標及びテーマ	実態把握とその分析内容、さらにそれに基づく実践との関連についての事例研究としてまとめることができる。事例研究の結果を個別もしくは複数を対象とした教育課程編成に的確に活用し、その成果をまとめて一般化することができる。				
授業の概要	児童生徒の実態の把握・分析と、それに基づく実践・教育課程編成という一連のプロセスを専門バックグラウンド科目（教科専門領域・教育科学専門領域）の知見をふまえて省察し、一般化を行い、リサーチペーパーを作成する。実態把握と分析内容と実践との関連についての事例研究。個別もしくは複数を対象とした教育課程編成に事例研究の成果を的確に活用するための検討。リサーチペーパーの作成。				
授業計画	1	オリエンテーション			
	2	教育実践における実態把握について：実態の記述と理解			
	3	教育実践における実態把握について（実態把握の成果発表と総括に関わって）			
	4	教育実践における実態分析について：背景要因や顕現メカニズムに分析と理解①			
	5	教育実践における実態分析について：背景要因や顕現メカニズムに分析と理解②			
	6	教育実践における実態分析について（実態分析の成果発表と総括に関わって）			
	7	指導支援法の構造化と教育課程編成の諸問題：児童生徒の実態と指導支援法の構造と配置①			
	8	指導支援法の構造化と教育課程編成の諸問題（指導支援法と教育課程編成の成果発表と総括と総括（第Ⅰ期）に関わって）			
	9	指導支援法の構造化と教育課程編成の諸問題：児童生徒の実態と指導支援法の構造と配置②・・省察			
	10	指導支援法の構造化と教育課程編成の諸問題（指導支援法と教育課程編成の成果発表と総括と総括（第Ⅱ期）に関わって）			
	11	指導支援法の構造化と教育課程編成の諸問題：児童生徒の実態と指導支援法の構造と配置③・・省察			
	12	指導支援法の構造化と教育課程編成の諸問題：児童生徒の実態と指導支援法の構造と配置④・・省察			
	13	指導支援法の構造化と教育課程編成の諸問題（指導支援法と教育課程編成の成果発表と総括と総括（第Ⅲ期）に関わって）			
	14	研究成果の総括とリサーチペーパーの構成・作成方法			
	15	研究成果の総括とリサーチペーパーの発表			
教科書・参考書等	当該大学院生の関心に基づき、その都度提示する。				
評価の観点	リサーチペーパーの作成に関わる実践と論理の往還性が明確になっていること				
成績の評価方法	資料収集等に関するレポートとその発表により、評価する。				

実践的指導

授業科目名	実践適応と評価・分析論B			
教員免許状取得のための	必修科目	授業形態		単位数 2単位
担当教員名	専任教員全員			
授業の到達目標及びテーマ	実践適用評価分析論Aの成果を教育課程編成に的確に活用・一般化することができる。児童生徒の実態の把握・分析と、それに基づく実践・教育課程編成という一連のプロセスを実践研究として位置づけ、学校・地域の学校間相互の研究活動を組織できる。			
授業の概要	児童生徒の実態の把握・分析と、それに基づく実践・教育課程編成という一連のプロセスを専門バックグラウンド科目（教科専門領域・教育科学専門領域）の知見をふまえて省察し、一般化を行い、リサーチペーパーを作成する。実態把握と分析内容と実践との関連についての事例研究。個別もしくは複数を対象とした教育課程編成に事例研究の成果を的確に活用するための検討。リサーチペーパーの作成。			
授業計画	1	オリエンテーション		
	2	教育実践における実態把握について：実態の記述と理解		
	3	教育実践における実態把握について（実態把握の成果発表と総括に関わって）		
	4	教育実践における実態分析について：背景要因や顕現メカニズムに分析と理解①		
	5	教育実践における実態分析について：背景要因や顕現メカニズムに分析と理解②		
	6	教育実践における実態分析について（実態分析の成果発表と総括に関わって）		
	7	指導支援法の構造化と教育課程編成の諸問題：児童生徒の実態と指導支援法の構造と配置①		
	8	指導支援法の構造化と教育課程編成の諸問題（指導支援法と教育課程編成の成果発表と総括と総括（第Ⅰ期）に関わって）		
	9	指導支援法の構造化と教育課程編成の諸問題：児童生徒の実態と指導支援法の構造と配置②・・省察		
	10	指導支援法の構造化と教育課程編成の諸問題（指導支援法と教育課程編成の成果発表と総括と総括（第Ⅱ期）に関わって）		
	11	指導支援法の構造化と教育課程編成の諸問題：児童生徒の実態と指導支援法の構造と配置③・・省察		
	12	指導支援法の構造化と教育課程編成の諸問題：児童生徒の実態と指導支援法の構造と配置④・・省察		
	13	指導支援法の構造化と教育課程編成の諸問題（指導支援法と教育課程編成の成果発表と総括と総括（第Ⅲ期）に関わって）		
	14	研究成果の総括とリサーチペーパーの構成・作成方法		
	15	研究成果の総括とリサーチペーパーの発表		
教科書・参考書等	当該大学院生の関心に基づき、その都度提示する。			
評価の観点	リサーチペーパーを形成に関わる論理の組み立てが明確になっていること			
成績の評価方法	資料収集等に関するレポートとその発表により、評価する。			

実践的指導

授業科目名	臨床教育総合研究A			
教員免許状取得のための	必修科目	授業形態	単位数	2単位
担当教員名	専任教員全員			
授業の到達目標及びテーマ	実態把握から分析を経て、教育課程の編成と検証までの児童生徒の実態及び、教育実践と関連した変容の記録（指導実践記録）の集積と総括ができる。一定のフォーマットの指導実践記録が集積され、児童生徒の実態と指導・支援の方法が情報として共有されることで、異なる対象児童生徒・学級学校の実践に有効であることが教員等指導者間で理解できる。			
授業の概要	児童生徒の実態の把握・分析と、それに基づく実践・教育課程編成という一連の科目群の中で理論化され往還的に検証された指導実践の記録及び指導に活用された教材・教具等を一般に公開することを視野に、一定のフォーマットのもとに集積する。実態把握から分析を経て、教育課程の編成と検証までの児童生徒の実態と実践と関連した変容の記録（指導実践記録）の集積と総括。			
授業計画	1	オリエンテーション		
	2	実態把握・分析、教育課程編成と検証までの指導実践記録の集積フォーマットの検討		
	3	実態把握・分析、教育課程編成と検証までの指導実践記録の集積①		
	4	実態把握・分析、教育課程編成と検証までの指導実践記録の集積②		
	5	実態把握・分析、教育課程編成と検証までの指導実践記録の集積③		
	6	実態把握・分析、教育課程編成と検証までの指導実践記録の集積④		
	7	実態把握・分析、教育課程編成と検証までの指導実践記録の総括①		
	8	実態把握・分析、教育課程編成と検証までの指導実践記録の総括②		
	9	仮公開とその検証①		
	10	仮公開とその検証②		
	11	仮公開とその検証③		
	12	検証に基づく修正①		
	13	検証に基づく修正②		
	14	検証に基づく修正③		
	15	指導実践データベースの公開		
教科書・参考書等	当該大学院生の関心に基づき、その都度提示する。			
評価の観点	実態把握・分析、教育課程編成と検証が反映された指導実践記録が集積されたかどうか			
成績の評価方法	資料収集等に関するレポートとその発表により、評価する。			

実践的指導

授 業 科 目 名	臨床教育総合研究B			
教員免許状取得のための	必修科目	授業形態		単位数 2単位
授 業 担 当 者	専任教員全員			
授 業 の 到 達 目 標 及 び テ ー マ	実態把握から分析を経て、教育課程の編成と検証までの児童生徒の教育実践において活用した教材・教具の集積と総括ができる。一定のフォーマットのもとで実践に活用された教材・教具が集積され、その利用方法が情報として共有されることで、異なる対象児童生徒・学級学校の実践に有効であることが教員等指導者間で理解される。			
授 業 の 概 要	児童生徒の実態の把握・分析と、それに基づく実践・教育課程編成という一連の科目群の中で理論化され往還的に検証された指導実践の記録及び指導に活用された教材・教具等を一般に公開することを視野に、一定のフォーマットのもとに集積する。指導実践において活用した教材・教具、場面の設定等に活用した器材等を指導実践記録と連関させたうえでの集積と総括。			
授 業 計 画	1	オリエンテーション		
	2	実態把握・分析，教育課程編成と検証までに活用した教材・教具等の集積フォーマットの検討		
	3	実態把握・分析，教育課程編成と検証までに活用した教材・教具等の集積①		
	4	実態把握・分析，教育課程編成と検証までに活用した教材・教具等の集積②		
	5	実態把握・分析，教育課程編成と検証までに活用した教材・教具等の集積③		
	6	実態把握・分析，教育課程編成と検証までに活用した教材・教具等の集積④		
	7	実態把握・分析，教育課程編成と検証までに活用した教材・教具等の総括①		
	8	実態把握・分析，教育課程編成と検証までに活用した教材・教具等の総括②		
	9	仮公開とその検証①		
	10	仮公開とその検証②		
	11	仮公開とその検証③		
	12	検証に基づく修正①		
	13	検証に基づく修正②		
	14	検証に基づく修正③		
	15	教材・教具ミュージアムの公開		
教 科 書 ・ 参 考 書	当該大学院生の関心に基づき，その都度提示する。			
評 価 の 観 点	実態把握・分析，教育課程編成と検証が反映された教材・教具等が集積されたかどうか			
成 績 の 評 価 方 法	資料収集等に関するレポートとその発表により，評価する。			